

みやぎ食の安全安心消費者モニター アンケート調査結果報告

アンケート対象者 「みやぎ食の安全安心消費者モニター」 814人(平成26年6月18日現在)

アンケート回答者数 432人(回収率 53.1%)

調査実施期間 平成26年6月中旬～6月下旬

アンケート回答者属性

男女構成

男性	女性	不明
97	298	37

年代別内訳

20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	不明
2	25	54	75	130	83	23	40

未成年の家族の有無

あり	なし	不明
98	291	43

宮城県の居住期間

5年未満	5～9年	10～19年	20年以上	不明
4	18	35	336	39

※男女別、年代別、未成年の家族の有無別の有意差については、有意水準5%で有意差検定を行っている。なお、複数回答の設問では選択肢毎に有意差検定を行った。

《結果概要》

I 食と放射性物質について

食品中の放射性物質を気にしている回答者は、昨年度（H25年）調査に比べて3.1ポイント低下し、全体では75.2%となった。気にしている理由は、「人体への影響の不安」、「基準値そのものへの不安」、「検査結果への不信感」などで昨年度と同様の傾向である。

一般食品における放射性セシウムの基準値を「知っていた」とした回答者は7割弱となった。「知らなかった」とした回答者は40代までの比較的若い世代の割合が高い。

放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報については、6割弱の回答者が確認している一方、「確認しない」とする回答者が昨年度に比べてやや多い4割弱であった。

情報の確認は新聞、テレビ・ラジオで行う回答者が依然多いが、ホームページなどを利用して確認する回答者は昨年より増加している。また、県が出す情報について「わかりにくい」とした回答者が16.3%で昨年度より3.6ポイント低下した。

ある産地で一つの食品に基準値を超える放射性物質が検出された場合の対応としては、「その品目、あるいは全ての品目でその産地を控える」が80.3%で、昨年度から4.8ポイント増加した。

放射線・放射性物質、食品中の放射性物質の基準値及び検査に関する認知度については、「基準値を超えた食品が確認された市町村の対応」、「食品由来の自然放射線」、「地方公共団体の作成した検査計画に基づいた検査」の順に認知度が高い。不安を感じる程度については、「セシウムの体内蓄積」、「食べ物由来のセシウム量」等、セシウムに関連する項目で不安の度合いが高い傾向にある。

食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けた行政の取組としては、「検査結果のわかりやすい公表」、「知識習得の機会の提供」、「県産農産物の安全性PR」、「放射性物質軽減対策の取組状況のPR」の順で要望が高く、継続した情報提供が求められている。

II 食の安全安心について

回答者の7割弱が食の安全安心全般について何らかの不安を感じている。

不安を感じている項目は、昨年度に引き続き「残留農薬」、「輸入食品の安全性」、「環境汚染物質」、「食品添加物」等に対して強い。

食品の安全安心を確保するために大変重要だが、十分に行われていないと認識されている取組としては、「輸入食品の検査体制の強化」、「違反、事件、事故の速やかな情報公開」、「食品の衛生・監視指導の強化」が平成24年から同様に上位を占めている。

さらなる食の安全安心に向けた県の取組としては、「生産者の取り組みへの支援」、「安全な農水産物生産環境づくり支援」、「生産者に対する安全性の監視及び指導の徹底」、「食関連事業者に対する安全性の監視及び指導の徹底」を求める意向が強い。

I 食と放射性物質について

問1 食品中の放射性物質について、どの程度気にしていますか。(単一回答)

1 非常に気にしている	2 ある程度気にしている	3 あまり気にしていない
4 ほとんど気にしていない	5 その他	

放射性物質については、「非常に気にしている」(16.2%)、「ある程度気にしている」(59.0%)を合わせて75.2%の回答者が気にしており、昨年度の調査に比べ3.1ポイント減少している。また、「あまり気にしていない」(19.9%)、「ほとんど気にしていない」(4.4%)を合わせた「気にしていない」回答者は24.3%で、昨年度の調査に比べ3.6ポイント増えている。

男女別では有意差は見られない。

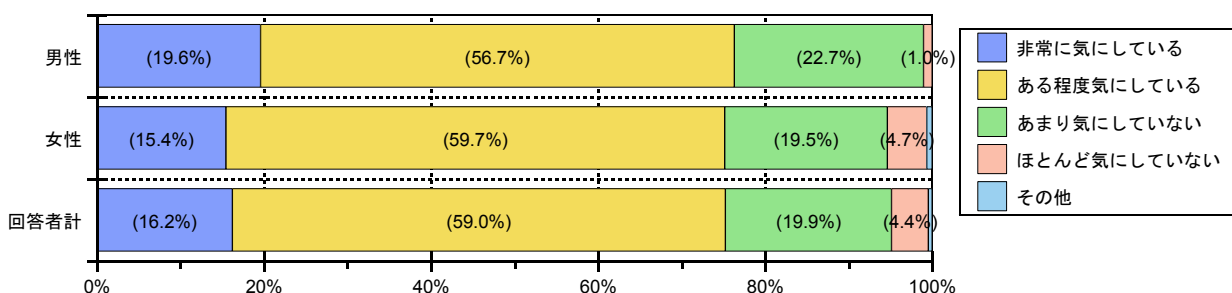
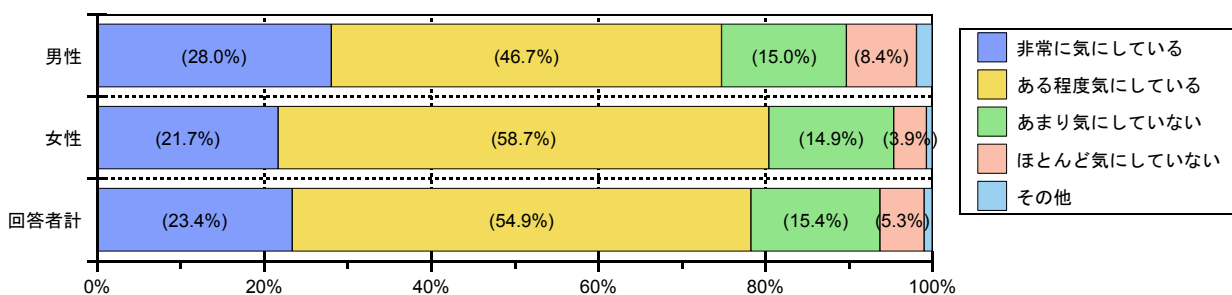


図1-1 放射性物質に対する意識 (男女別)



参考 (H25) 放射性物質に対する意識 (男女別)

年代別で差があるように見えるが、これは「30代以下」、「40代」の回答者が少ないためで、統計的に年代別の有意差は見られない。

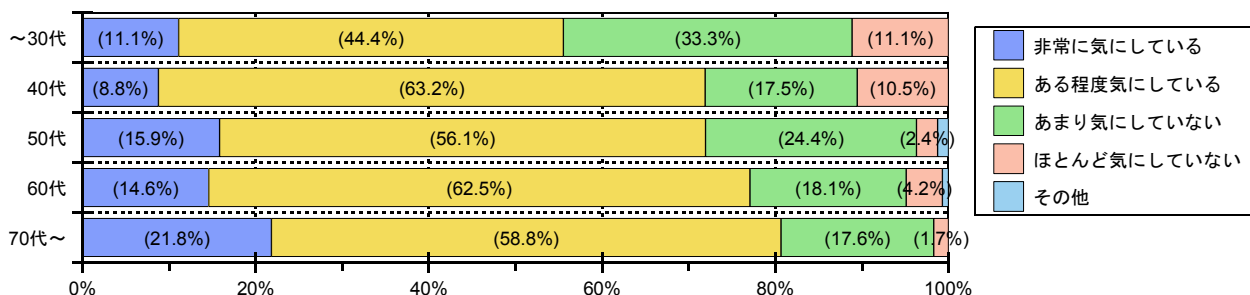


図1-2 放射性物質に対する意識 (年代別)

未成年の家族の有無別には有意差は見られない。

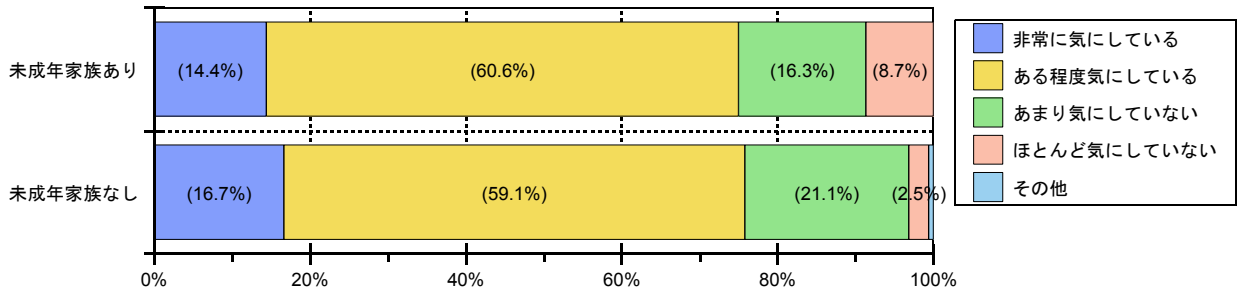


図 1-3 放射性物質に対する意識（未成年の家族の有無別）

問 2 気にしている理由は何ですか。（複数回答）

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 基準値そのものが不安だから | 2 検査体制が不安だから |
| 3 公表された検査結果が信用できるものなのか不安だから | |
| 4 人体への影響が不安だから | 5 そもそも放射性物質がよく分からず不安だから |
| 6 その他 | |

放射性物質を気にしている回答者の理由としては、「人体への影響が不安だから」(36.3%)、「基準値そのものが不安だから」(18.3%)、「公表された検査結果が信用できるものなのか不安だから」(17.5%)、「検査体制が不安だから」(14.7%)の順である。

男女別、年代別、未成年の家族の有無別のそれぞれにおいて有意差は見られない。

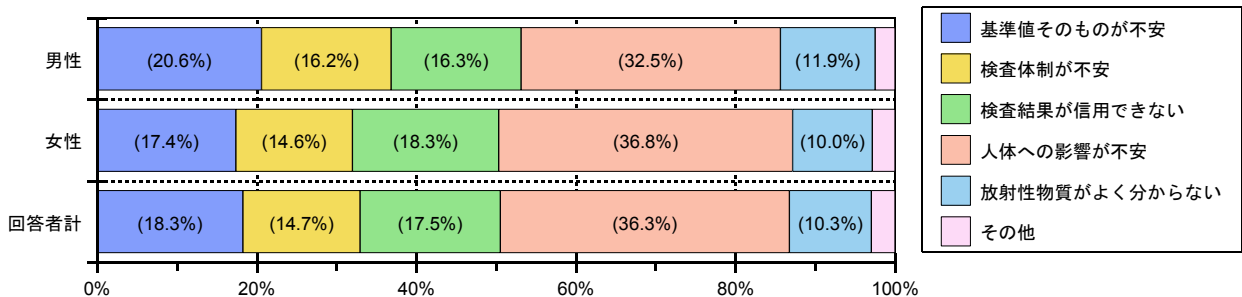
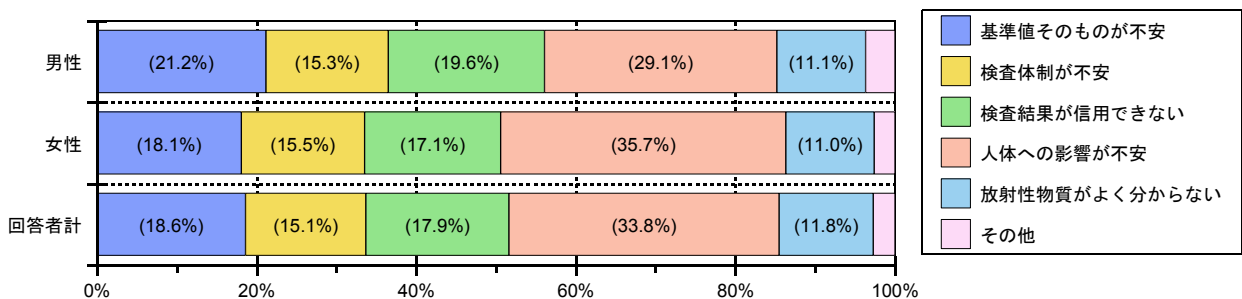


図 2-1 気にしている理由（男女別）



参考（H25） 気にしている理由（男女別）

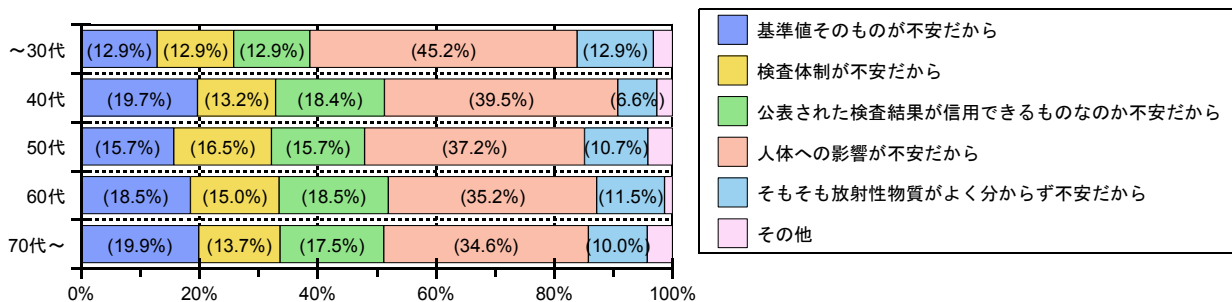


図 2-2 気にしている理由（年代別）

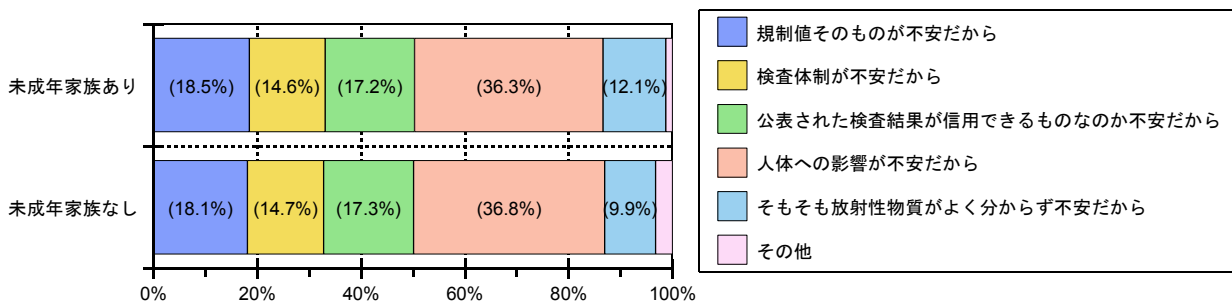


図 2-3 気にしている理由（未成年の家族の有無別）

問 3 気にしていない理由は何ですか。（複数回答）

- 1 基準値以下なら安全だと思っているから
- 2 検査が十分に行われていると思っているから
- 3 人体に大きな影響はないと思っているから
- 4 放射性物質による影響が出るのは先のことだから
- 5 放射性物質についてよく分からないので気にしても仕方ないから
- 6 その他

問 1 で放射性物質を気にしていない回答者は全体の24.3%で、その理由としては、「基準値以下なら安全だと思っているから」(34.8%)、「検査が十分に行われていると思っているから」(34.8%)が高かった。また、「人体に大きな影響はないと思っているから」と答えた方は、昨年度より5.8ポイント減少し、9.6%であった。

男女別で有意差が見られ、「検査が十分に行われていると思っているから」の項目では「女性」の回答割合が高く、「人体に大きな影響はないと思っているから」の項目では「男性」の回答割合が高い。

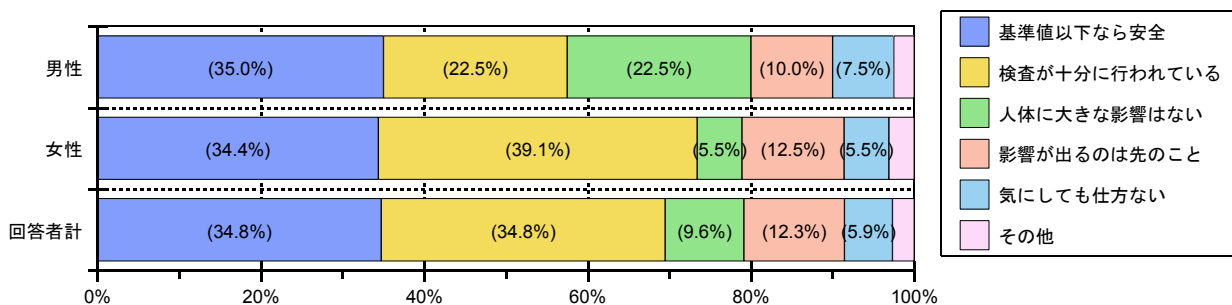
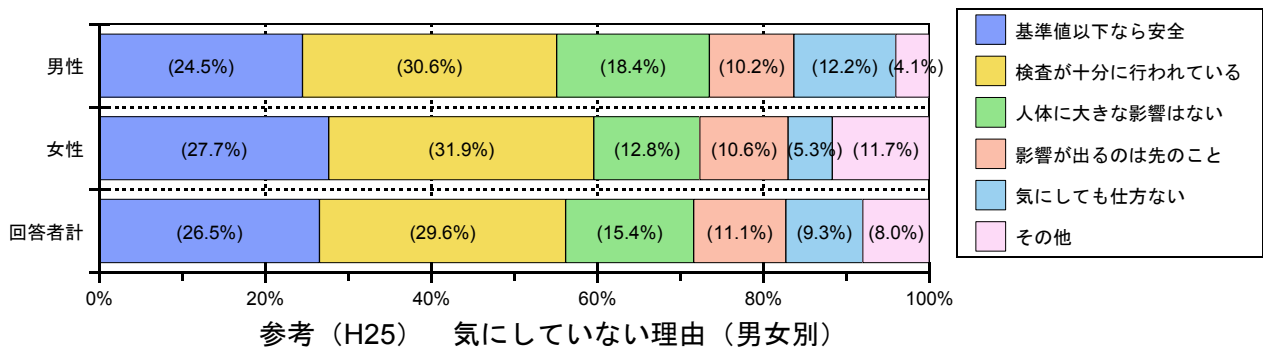
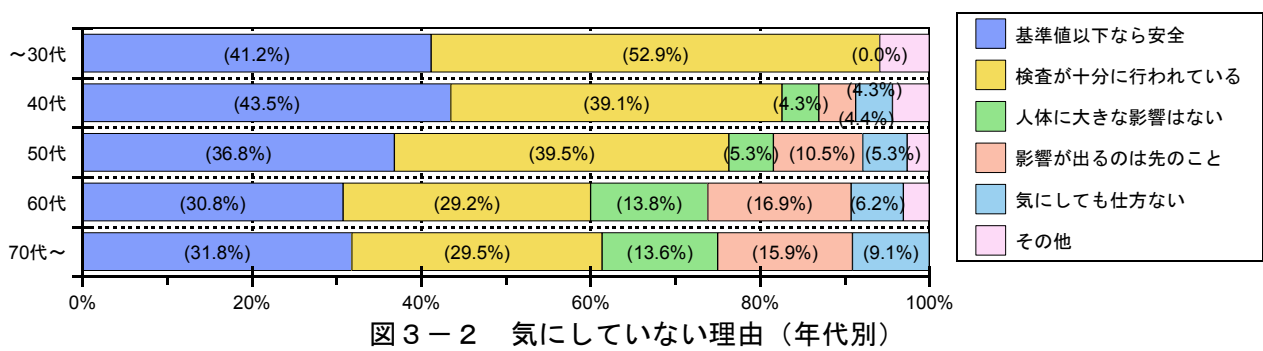


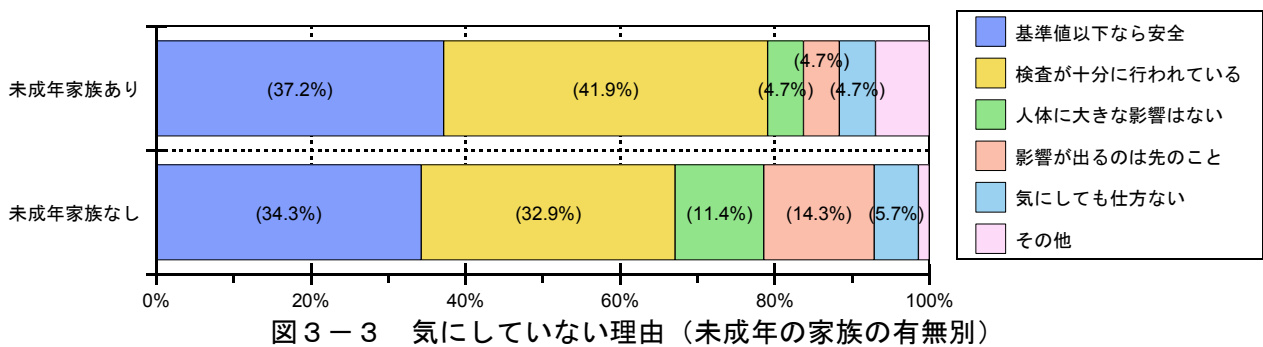
図 3-1 気にしていない理由（男女別）



年代別では有意差が見られ、「放射性物質による影響が出るのは先のことから」の項目で「60代」の回答割合が高い。



未成年の家族の有無別では有意差が見られ、「放射性物質による影響が出るのは先のことから」とした回答者は「未成年の家族あり」で回答割合が低く、「未成年の家族なし」で回答割合が高い。



問4 現在どのような食品が不安ですか。(複数回答)

1 米	2 野菜	3 果物	4 きのこと・山菜類	5 肉類	6 魚介類
7 卵	8 牛乳	9 お茶	10 水道水	11 その他	12 不安な食品は特にな

不安を抱えている食品としては、「魚介類」(20.7%)、「きのこ・山菜類」(20.0%)、「野菜」(12.3%)、「水道水」(8.3%)の順であり、基準値を超えたと公表された品目「魚介類」,「きのこ・山菜類」,「野菜類」についてはやや高い傾向にある。

男女別では、「水道水」の項目で有意差が見られ、「女性」の方が気にする割合が高い。その他の項目では有意差は見られない。

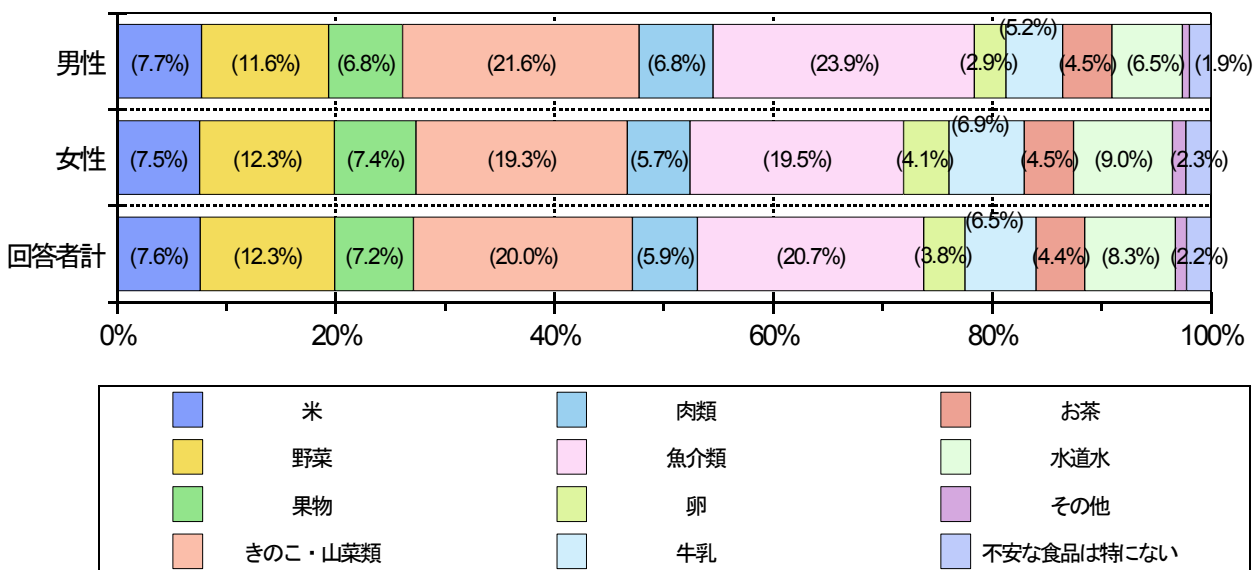
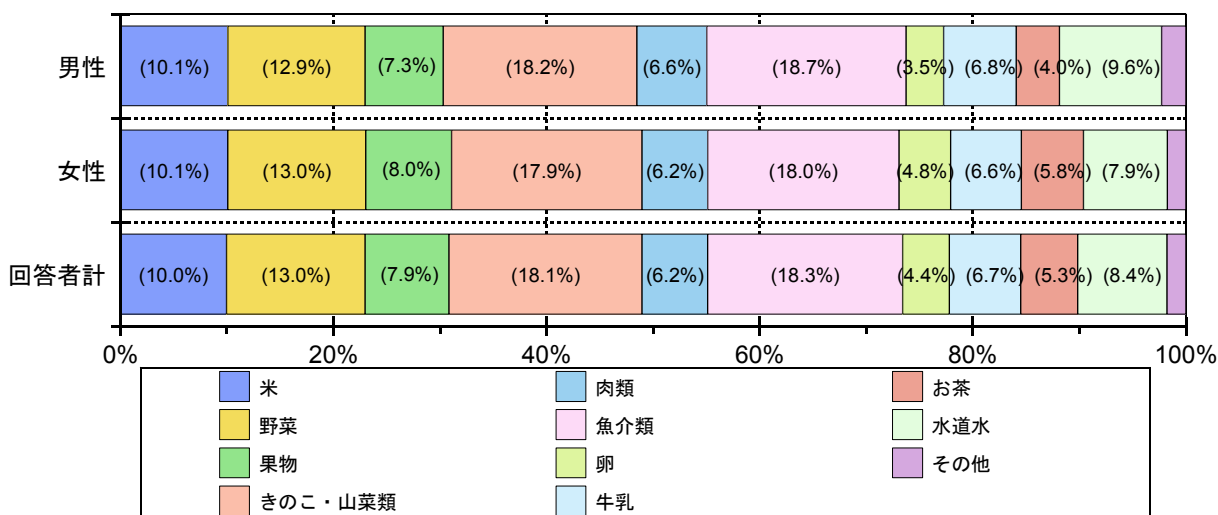


図4-1 不安を感じる食品 (男女別)



参考 (H25) 不安を感じる食品 (男女別)

年代別では有意差は見られない。

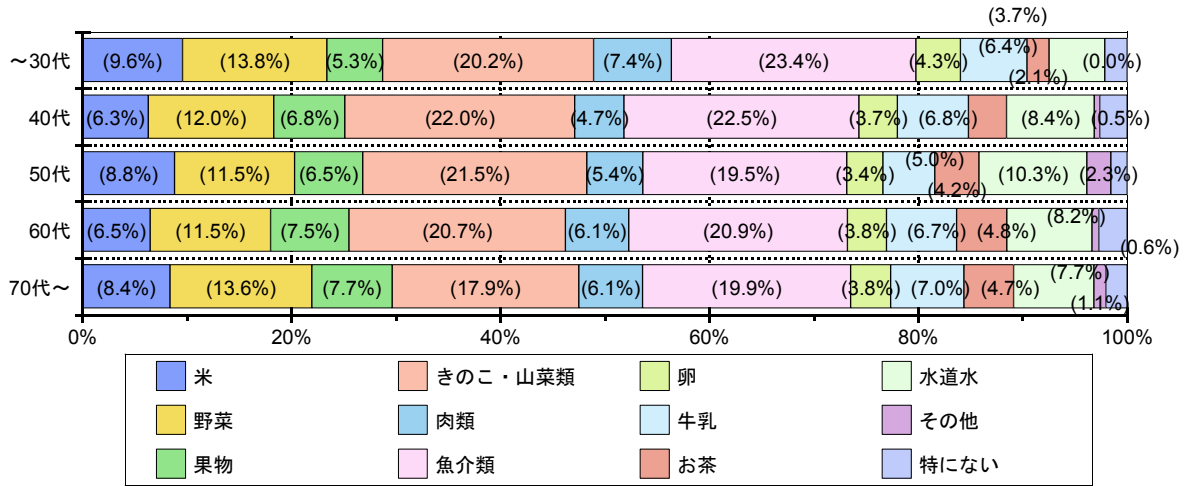


図 4-2 不安を感じる食品（年代別）

未成年の家族の有無別では、「野菜」の項目で有意差が見られ、「未成年の家族あり」で不安を感じる割合が高い。

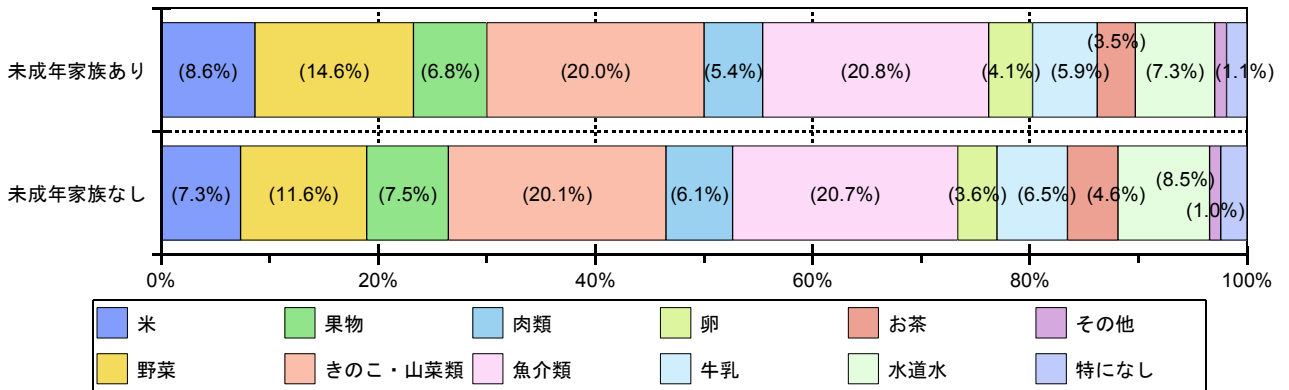


図 4-3 不安を感じる食品（未成年の家族の有無別）

問5 一般食品における放射性セシウムの基準値は、1キログラムあたり100ベクレルですが、この数値を知っていましたか。(単一回答)

1 知っていた	2 知らなかった
---------	----------

一般食品の基準値の認知については、「100 Bq/kg」と正しく認識している回答者が半数以上の68.1%であった。

男女別に有意差は見られない。

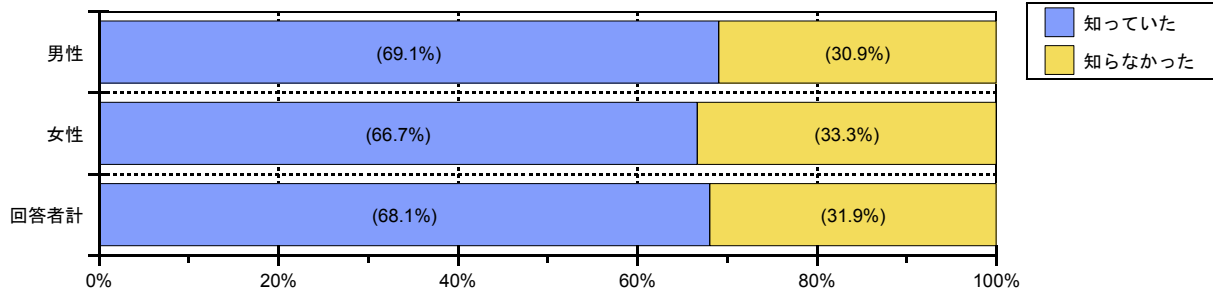


図5-1 基準値の認知度(男女別)

年代別では「知らなかった」の項目で、「30代以下」および「40代」の回答割合が高い。

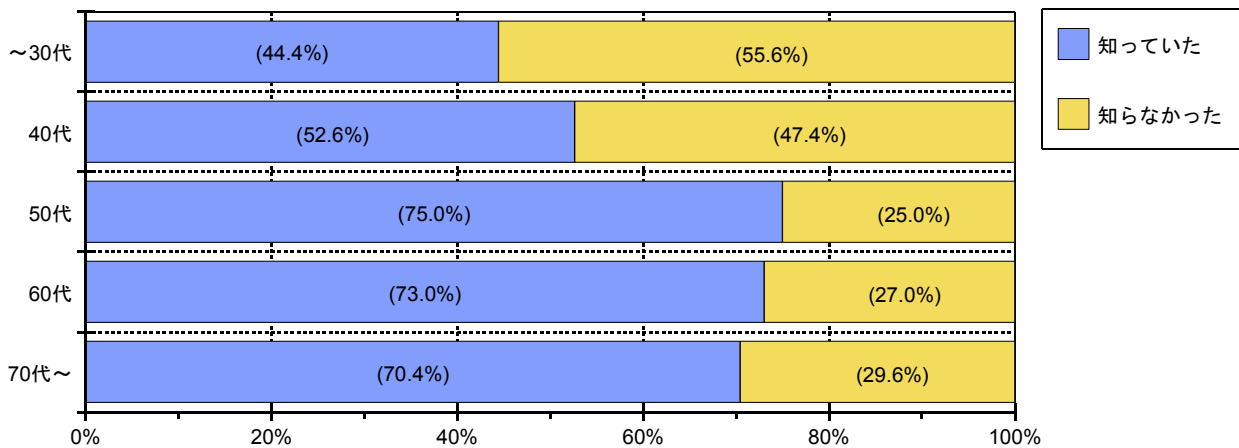


図5-2 基準値の認知度(年代別)

未成年の家族の有無別では有意差があり、「知っていた」の項目では「未成年の家族なし」の回答割合が高く、「知らなかった」の項目では「未成年の家族あり」の回答割合が高い。年代別の結果で、30代~40代にかけての世代で基準値に対する認知度が低い傾向が見られたが、比較的若い世代と推測される「未成年の家族あり」の回答者でも「知らなかった」割合が高く、同じ傾向が見られた。

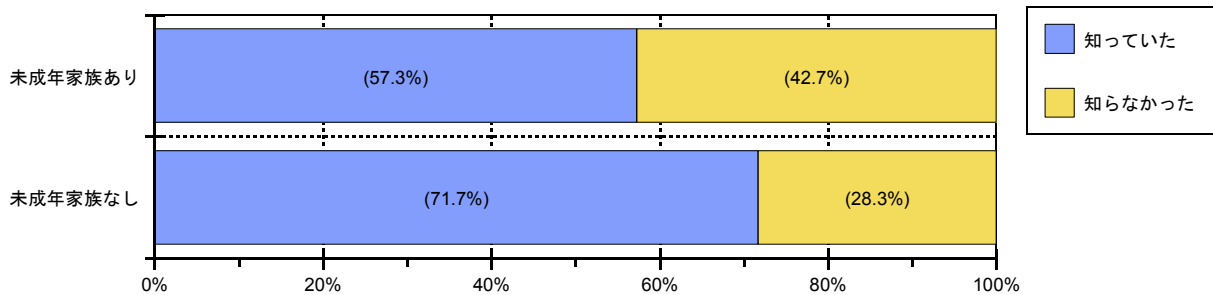


図5-3 基準値の認知度(未成年の家族の有無別)

問6 一般食品における放射性セシウムの基準値について、どう思いますか。(複数回答)

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 基準値以下なら安心 | 2 基準値以下でも不安 |
| 3 基準値が高すぎる(甘すぎる) | 4 基準値が低すぎる(厳しすぎる) |
| 5 特に気にしていない | 6 よく分からない |
| 7 その他 | |

食品に対する基準値については、「基準値以下なら安心」との回答(33.1%)が昨年度同様に一番高かった。

また、「基準値が高すぎる(甘すぎる)」が3.4ポイント増え(11.3%)、「基準値が低すぎる(厳しすぎる)」が2.2ポイント減った(2.1%)。

男女別では、「基準値以下なら安心」、「基準値が高すぎる(甘すぎる)」の項目で有意差が見られ、「男性」の回答割合が高い。

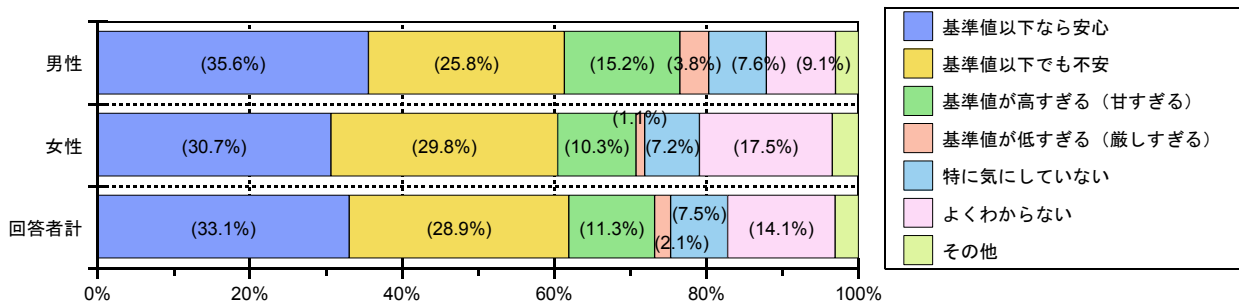
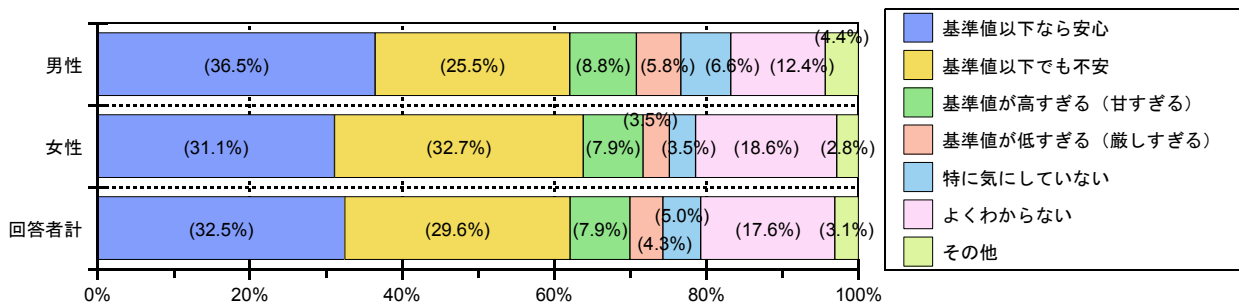


図6-1 基準値に対する意識(男女別)



参考(H25) 基準値に対する意識(男女別)

年代別では有意差は見られない。

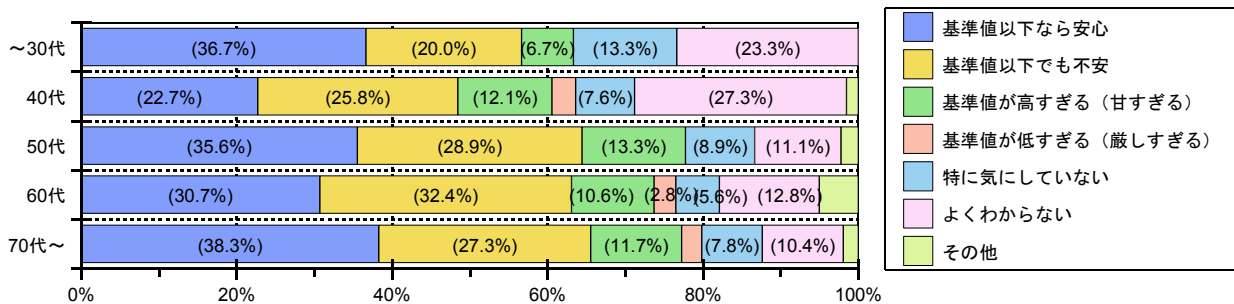


図6-2 基準値に対する意識(年代別)

未成年家族の有無別で有意差が見られ、「基準値以下なら安心」の項目で「未成年の家族あり」の回答割合が低い。

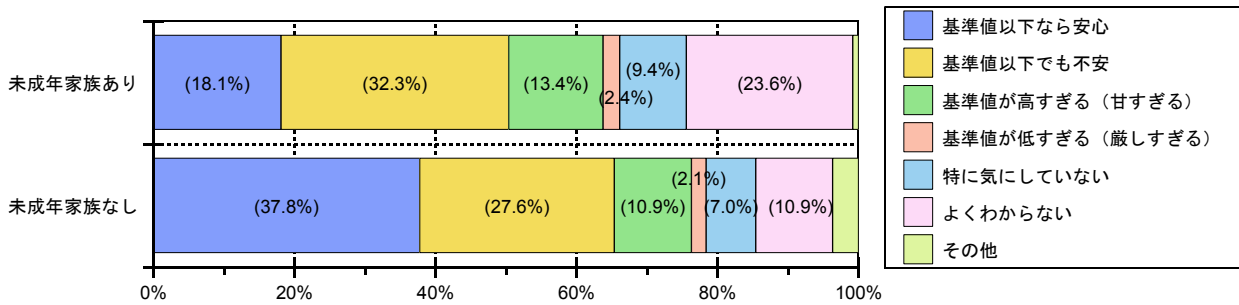


図 6-3 基準値に対する意識 (未成年の家族の有無別)

問 7 食品を購入するとき、行政が発表している放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報を確認していますか。(単一回答)

- | | |
|-----------------------------|-----------|
| 1 必ず確認している | 2 たまに確認する |
| 3 売られているものは安全だと思っているので確認しない | 4 気にしていない |
| 5 気にしているが、確認はしていない | 6 その他 |

放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報については、「必ず確認している」(18.5%)、「たまに確認する」(37.2%)を合わせて、「確認する」が55.7%で、昨年度より2.0ポイント少なくなった一方、「確認しない」「気にしているが、確認はしていない」は合わせて39.8%と、昨年より高い。

男女別、年代別、未成年の家族の有無別のそれぞれにおいて有意差は見られない。

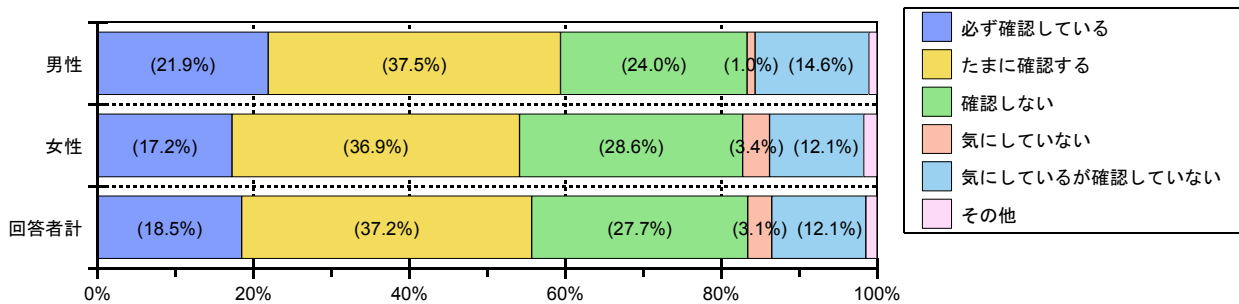
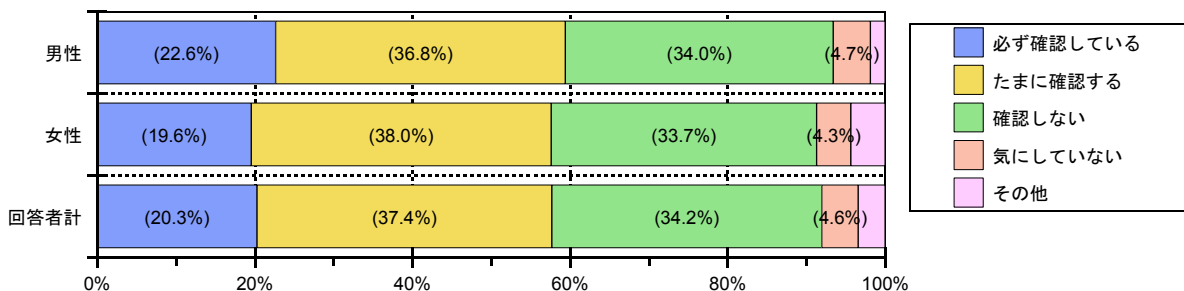


図 7-1 放射性物質検出結果等関連情報の確認状況 (男女別)



参考 (H25) 放射性物質検出結果等関連情報の確認状況 (男女別)

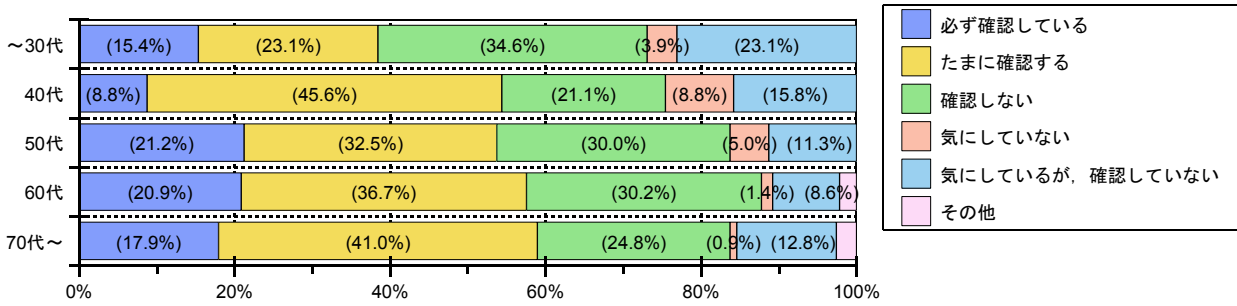


図 7-2 放射性物質検出結果等関連情報の確認状況 (年代別)

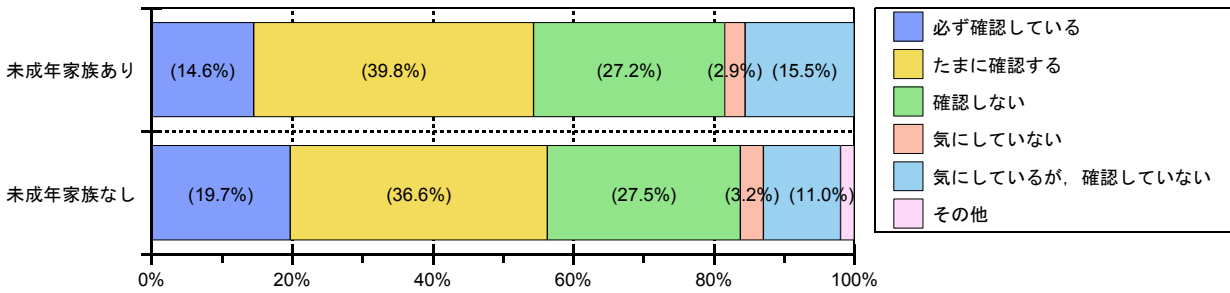


図 7-3 放射性物質検出結果等関連情報の確認状況 (未成年の家族の有無別)

問 8 放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報を、どのように確認していますか。(複数回答)

- | | | |
|--------------|--------------|------------|
| 1 宮城県のホームページ | 2 市町村のホームページ | 3 新聞 |
| 4 テレビ・ラジオ | 5 店頭表示 | 6 家族・友人・知人 |
| 7 その他 | | |

放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報の確認方法としては、「新聞」(35.2%)、「テレビ・ラジオ」(22.6%)が圧倒的に高く、次いで「ホームページ」閲覧で「宮城県のホームページ」(10.3%)、「市町村のホームページ」(8.1)を%合わせて18.4%となった。

男女別で有意差が見られ、「宮城県のホームページ」の項目で「男性」の回答割合が高い。

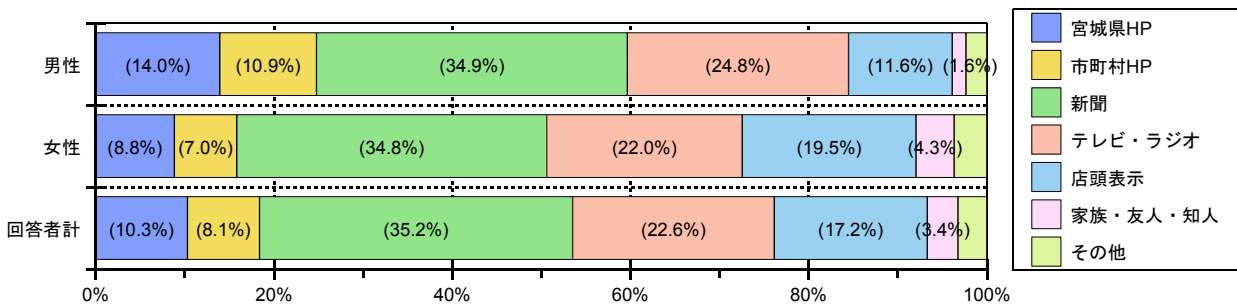
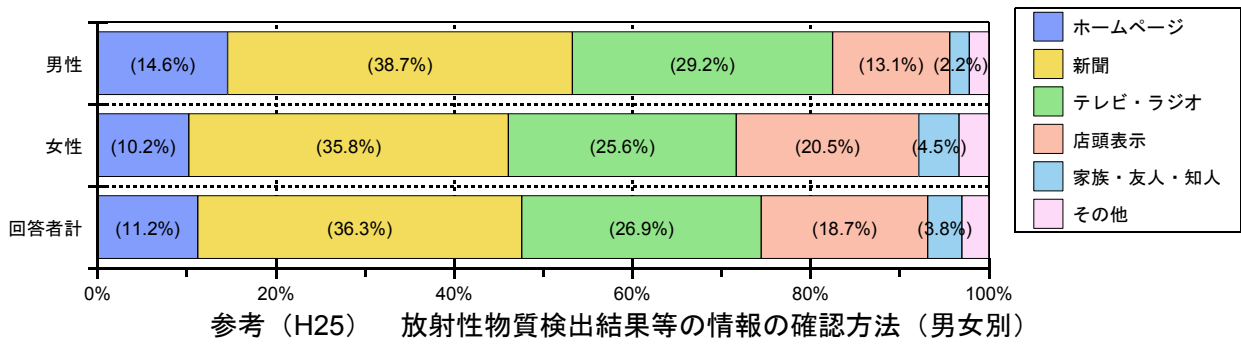
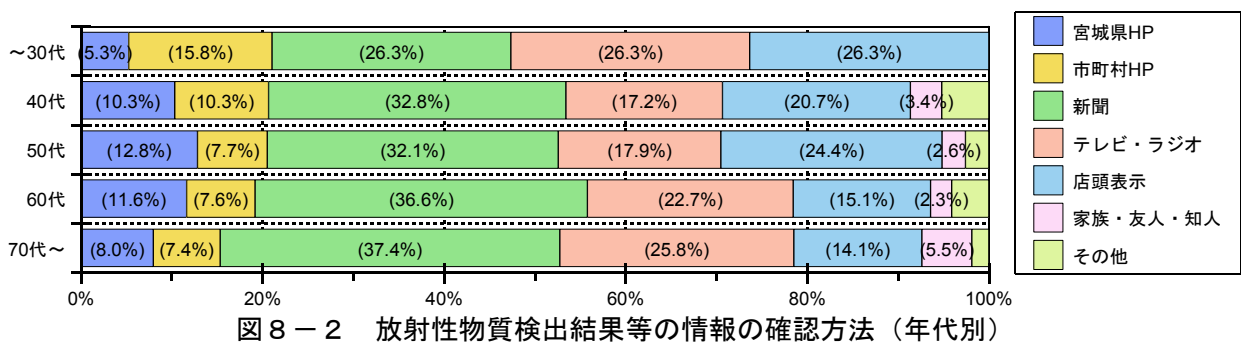


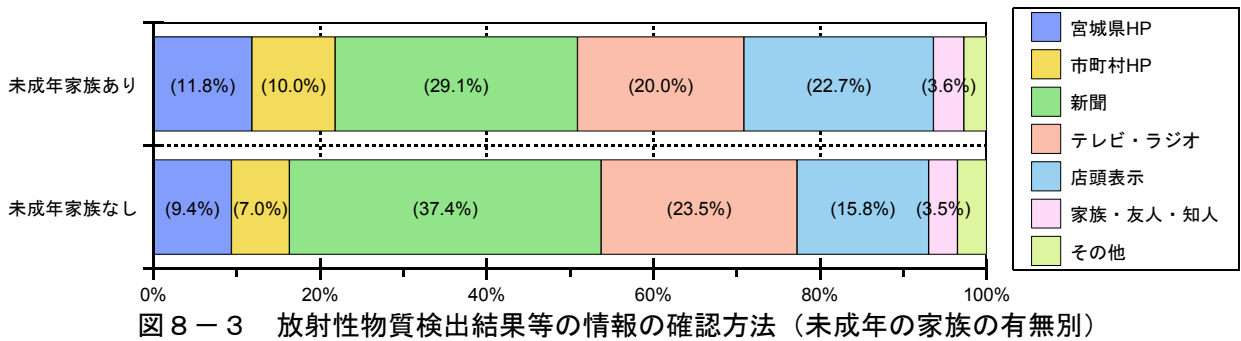
図 8-1 放射性物質検出結果等の情報の確認方法 (男女別)



年代別で有意差が見られ、「50代以下」は新聞で確認する割合は低い傾向にあり、「70代以上」では「テレビ・ラジオ」で確認する割合が高い。



未成年の家族の有無別で有意差が見られ、「新聞」の項目で「未成年の家族なし」の回答割合が高い。



問9 県が出す食と放射性物質に関する情報はわかりやすいですか。(単一回答)

1 とてもわかりやすい	2 わかりやすい	3 どちらでもない
4 わかりにくい	5 とてもわかりにくい	6 その他

県が出す食と放射性物質に関する情報については、「とてもわかりやすい」(4.3%)、「わかりやすい」(31.0%)を合わせて「わかりやすい」とする回答者が35.3%、「わかりにくい」(13.0%)、「とてもわかりにくい」(3.3%)を合わせて「わかりにくい」とする者が16.3%となった。昨年よりも「わかりやすい」という割合が高い。

男女別において有意差は見られない。

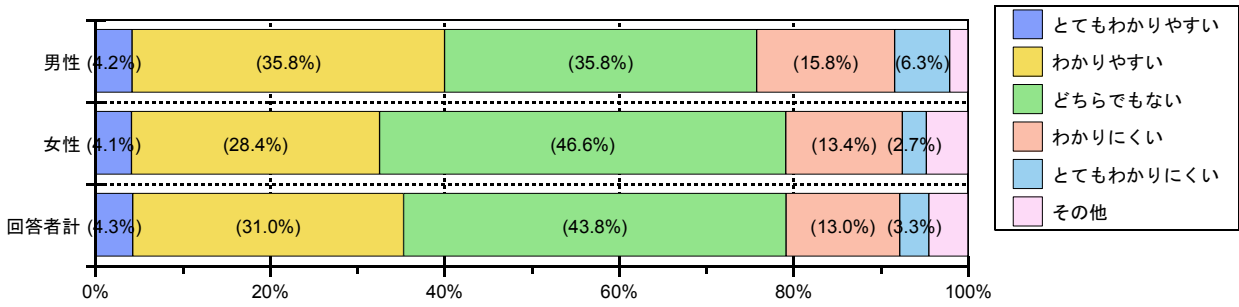
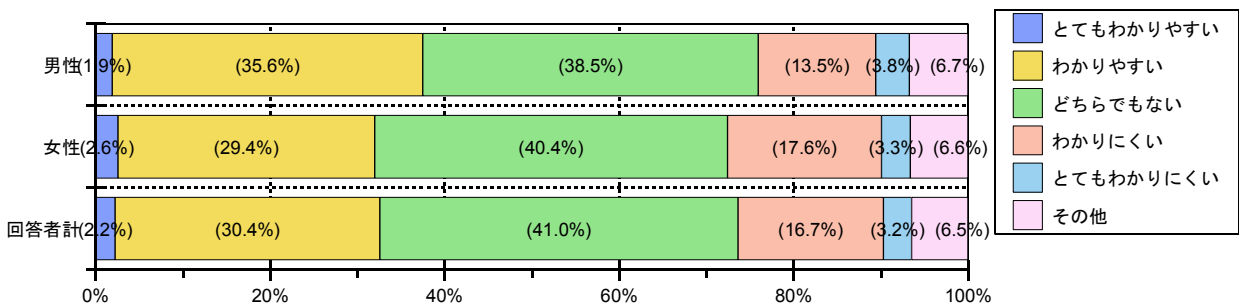


図9-1 県の食と放射性物質に関する情報のわかりやすさ (男女別)



参考 (H25) 県の食と放射性物質に関する情報のわかりやすさ (男女別)

年代別では、「どちらでもない」の項目で「40代」の回答割合が、「わかりやすい」の項目で「70代」の回答割合がそれぞれ有意に高い。

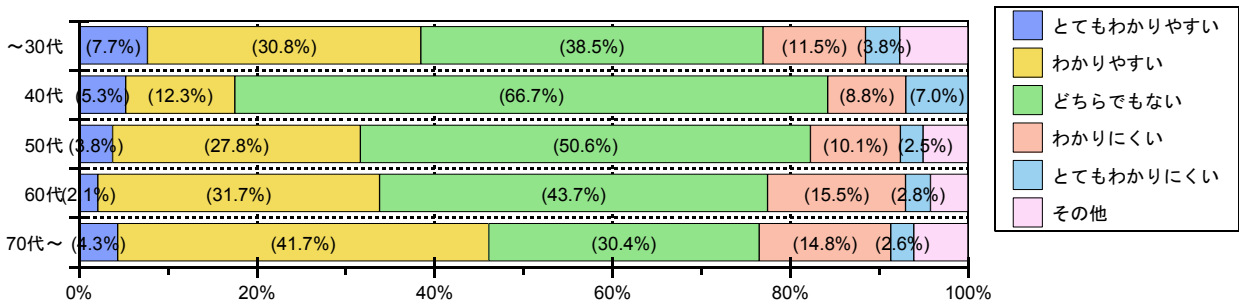


図9-2 県の食と放射性物質に関する情報のわかりやすさ (年代別)

未成年家族の有無別では、「どちらでもない」の項目で「未成年の家族あり」の回答割合が、「わかりやすい」の項目で「未成年の家族なし」の回答割合がそれぞれ有意に高い。

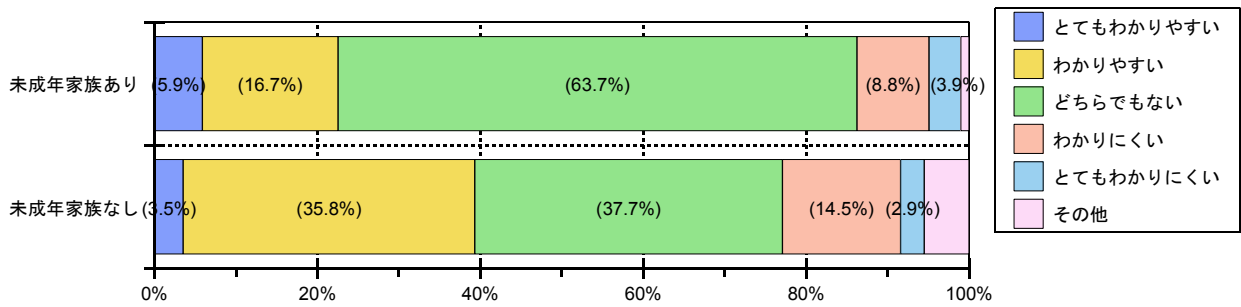


図9-3 県の食と放射性物質に関する情報のわかりやすさ (未成年の家族の有無別)

問10 ある産地(市町村単位)で1つの食品について基準値を超える放射性物質が検出された場合の、あなたの購買活動についてお聞きします。(単一回答)

- 1 その産地の全ての農畜水産物について購入を控える
- 2 全てではないが、その農畜水産物については、他の産地のものを購入する
- 3 全てではないが、その農畜水産物については、他の産地のものでも購入は控える
- 4 特に気にせず購入する
- 5 その他

基準値を超える放射性物質が検出された場合の購買活動としては、「全てではないが、その農畜水産物については、他の産地のものを購入する」(63.1%)が最も多く、昨年度から3.5ポイント増加した。また、「その産地の全ての農畜水産物について購入を控える」(17.2%)は昨年度から1.3ポイント増加した。「全てではないが、その農畜水産物については、他の産地のものでも購入は控える」(7.2%)は昨年度より5.5ポイント減少した。「特に気にせず購入する」(10.2%)は、昨年度より0.6ポイント増加した。

「その産地の全ての農畜水産物について購入を控える」と「全てではないが、その農畜水産物については、他の産地のものを購入する」を合わせると80.3%で昨年度より4.8ポイント増加しており、一つの食品で基準値を超えた場合、その産地のものを選択しない傾向がやや強まった。

男女別、年代別、未成年家族の有無別のそれぞれにおいて有意差は見られない。

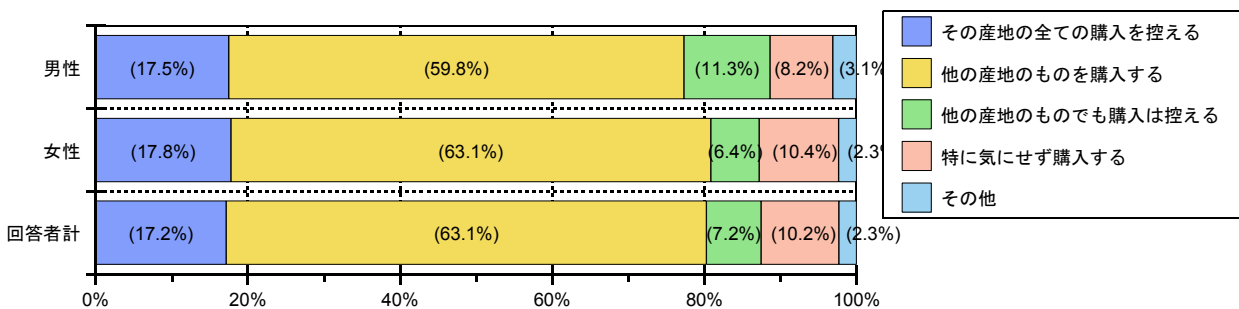
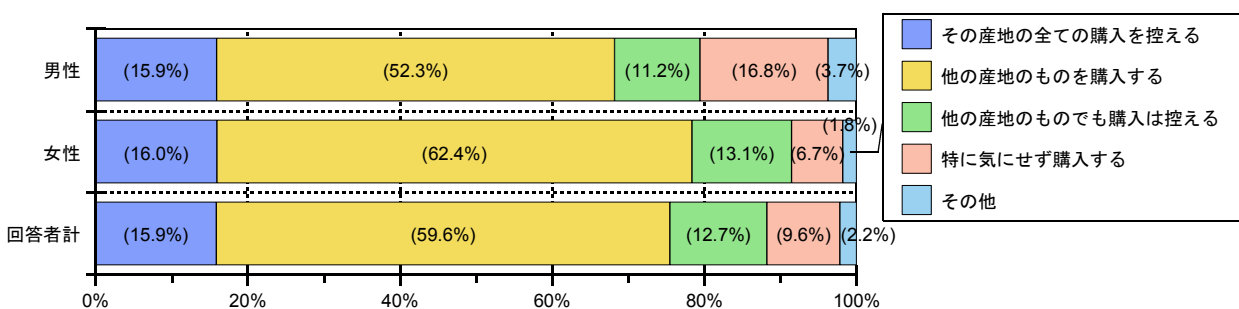


図10-1 基準値を超えた場合の購買活動 (男女別)



参考 (H25) 基準値を超えた場合の購買活動 (男女別)

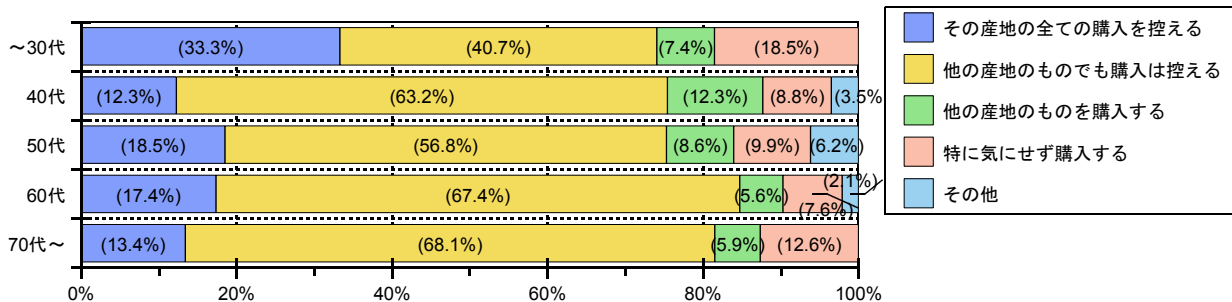


図10-2 基準値を超えた場合の購買活動（年代別）

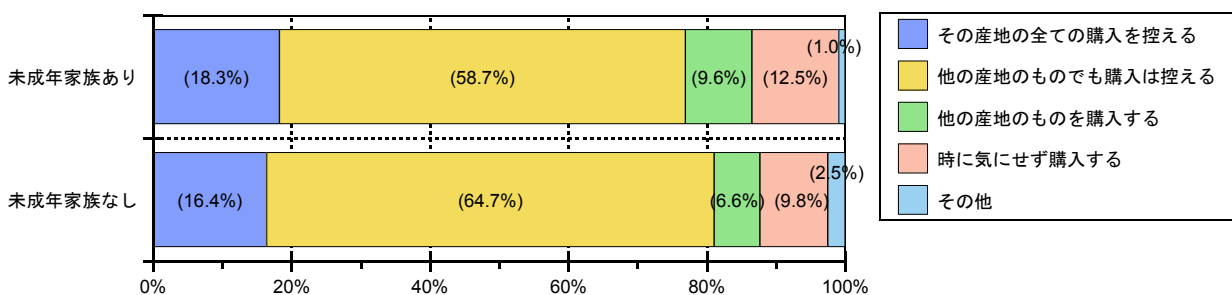


図10-3 基準値を超えた場合の購買活動（未成年の家族の有無別）

問11 一度基準値を超えた後に、基準値以下あるいは不検出となった食品について、あなたならどうしますか。（単一回答）

- | | |
|--------------------------|------------|
| 1 検出されていても基準値以下なら食べる | 3 不検出なら食べる |
| 2 基準値以下であっても検出されていれば食べない | 5 その他 |
| 4 不検出であっても不安なので食べない | |

一度基準値を超えた後に基準値以下あるいは不検出となった食品については、「検出されていても基準値以下なら食べる」は昨年度に比べ1.0ポイント減少し、23.2%となった。「不検出なら食べる」が40.7%、「基準値以下であっても検出されていれば食べない」が20.8%、「不検出であっても不安なので食べない」が12.4%と、一度基準値を超えた食品に対する不安感は依然として強い傾向にある。

男女別では、「基準値以下なら食べる」の項目では「男性」の回答割合が、「不検出なら食べる」の項目では「女性」の回答割合がそれぞれ有意に高い。

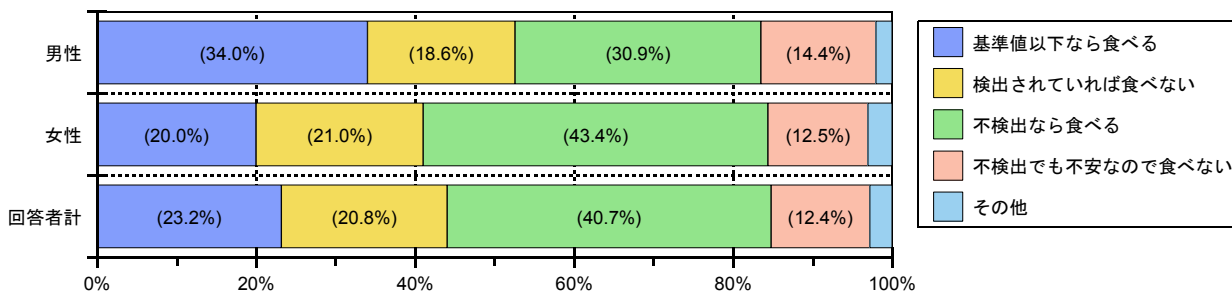
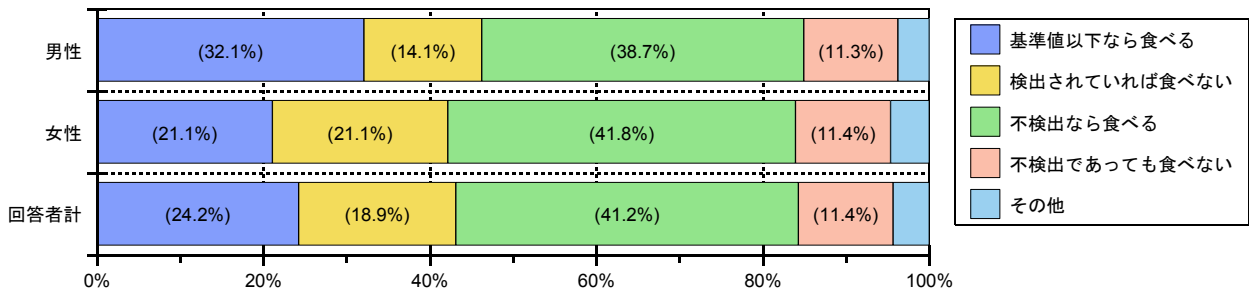


図11-1 一度基準値を超えた食品の購買行動（男女別）



参考(H25) 一度基準値を超えた食品の購買行動 (男女別)

年代別、未成年家族の有無別のそれぞれにおいて有意差は見られない。

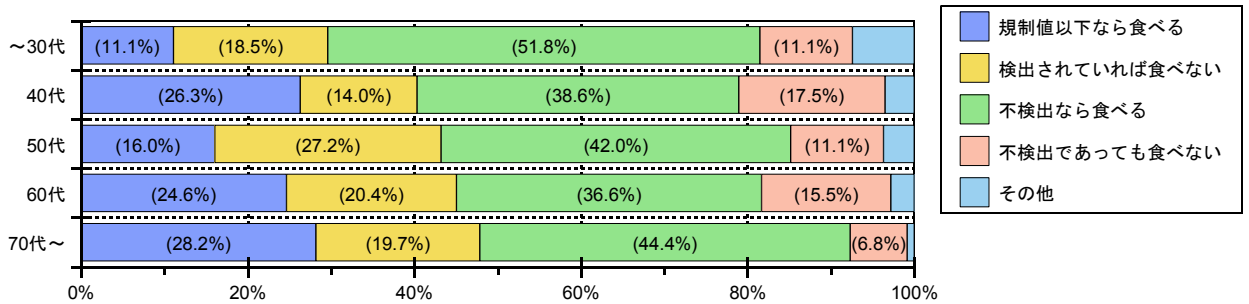


図11-2 一度基準値を超えた食品の購買行動 (年代別)

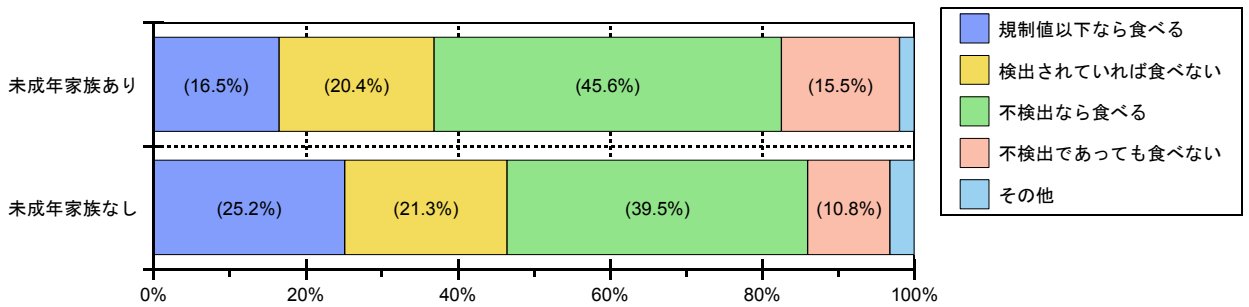


図11-3 一度基準値を超えた食品の購買行動 (未成年の家族の有無別)

問12 福島第一原子力発電所事故後、食品を購入するとき、何か変わったことはありますか。(複数回答)

- 1 産地表示を必ず確認するようになった
- 2 宮城県産以外のものを買うようになった
- 3 国産より外国産を買うようになった
- 4 復興支援のため、宮城県産のものを積極的に買うようになった
- 5 出荷制限などの情報を積極的に集めるようになった
- 6 店頭で放射性物質関連の情報を表示している店を選んで行くようになった
- 7 水道水の使用には気を遣い、ミネラルウォーターを買うようになった
- 8 特に変わりはない
- 9 その他

原発事故後の食品購入行動の変化としては、「産地表示を必ず確認するようになった」が昨年度より1.5ポイント増の37.3%で最も高く、次いで「復興支援のため、宮城県産のものを積極的に買うようになった」が昨年度より0.7ポイント増の20.8%となった。また、「宮城県産以外のものを買うようになった」が2.0ポイント減の2.1%、「国産より外国産を買うようになった」が1.3ポイント減の1.4%となった。

男女別では、「宮城県産以外のものを買うようになった」、「復興支援のため、宮城県産のものを積極的に買うようになった」の項目で有意差が見られ、いずれも「男性」の回答割合が高い。

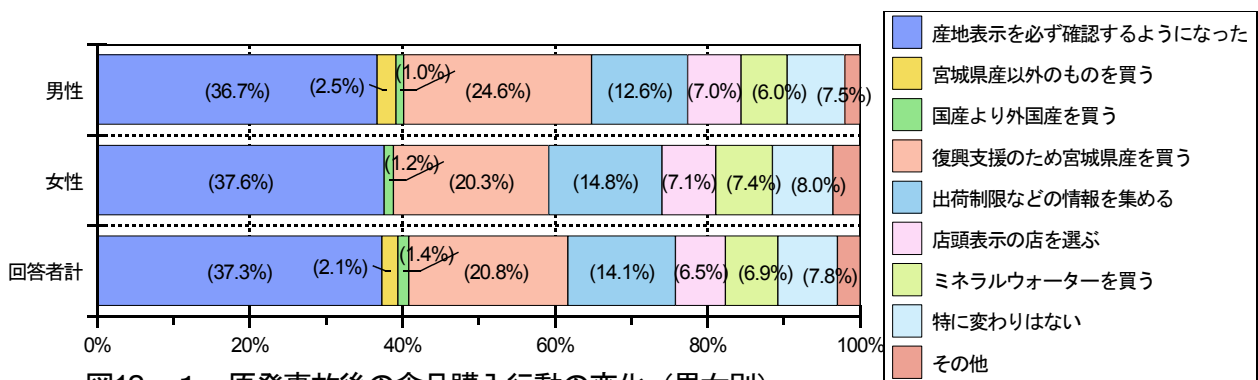
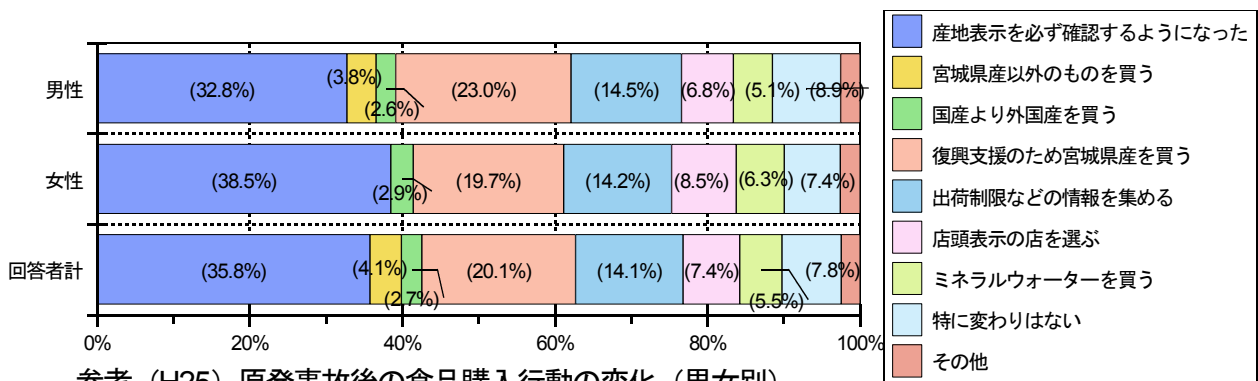


図12-1 原発事故後の食品購入行動の変化 (男女別)



参考 (H25) 原発事故後の食品購入行動の変化 (男女別)

年代別では、「国産より外国産を買うようになった」の項目で有意差が見られ、「70代以上」の回答割合が高い。「復興支援のため、宮城県産のものを積極的に買うようになった」の項目では、「70代以上」が高く、「40代」が低い。

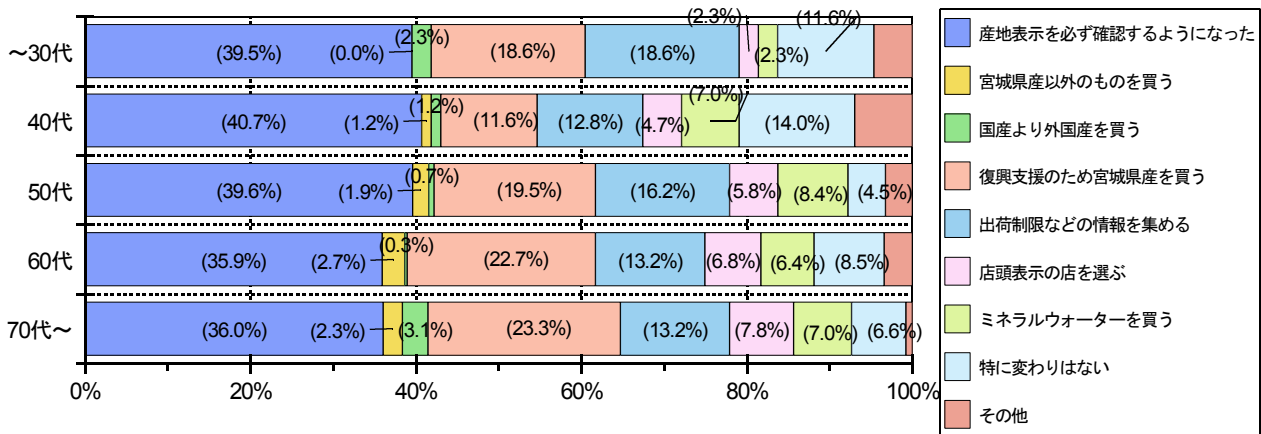


図12-2 原発事故後の食品購入行動の変化（年代別）

未成年の家族の有無別では、「復興支援のため、宮城県産のものを積極的に買うようになった」の項目で有意差が見られ、「未成年の家族なし」の回答割合が高い。

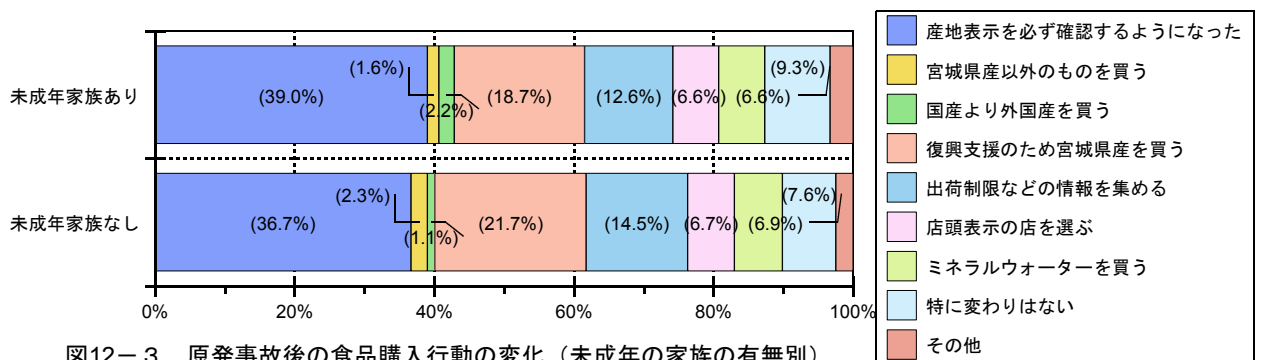


図12-3 原発事故後の食品購入行動の変化（未成年の家族の有無別）

問 1 3 放射線・放射性物質，食品中の放射性物質の基準値及び検査に関する次の 1～10の項目について，あてはまる番号 1つを選んでください。

- 1 地球外からの宇宙線や大気中のラドンに加え，食品中の天然由来のカリウム 40 などから，私たちは自然放射線を受けている。
- 2 国立がん研究センターでは，100～200 ミリシーベルトの放射線を受けた場合ががんになるリスクの大きさを 1.08 倍としているが，これは運動不足や肥満，痩せ過ぎの場合のリスクよりも小さい。
- 3 放射性セシウムが体内に入った場合に残存する量は約 3 ヶ月で半減し（50 歳の場合），特定の臓器に蓄積する性質はない。
- 4 基準値は，一般食品 100 ベクレルのほか，水 10 ベクレル，乳児用食品・牛乳各 50 ベクレル（すべて 1 キログラムあたり）であり，小児へ配慮した数値にしている。
- 5 日本の基準値は，EU やアメリカよりも低く，また，生涯食べ続けても安全になるよう設定されている。
- 6 現行の基準値は，他の放射性物質を考慮した上で，セシウムを代表として定めている。
- 7 基準値を超えた食品が確認された市町村では，他の同一品目の食品が出荷・流通・消費されないようにしている。
- 8 検査は，厚生労働省の指針に従い，地方公共団体が作成した検査計画に基づいて行われている。
- 9 地方公共団体が定めた検査計画では，農地の汚染やこれまでの作物の検査結果等が反映されている。
- 10 厚生労働省などが行った調査の結果，食べものから体に入る原発事故由来の放射性セシウムは，年間で最大でも 0.02 ミリシーベルトとなっている。

認知	1 よく知っている	2 聞いたことがある	3 知らない
----	-----------	------------	--------

不安を感じる程度	1 安心	2 やや安心	3 どちらともいえない
	4 やや不安	5 不安	

認知度の間では，「よく知っている」を 2 点，「聞いたことがある」を 1 点として加重平均をとり比較したところ，「7 基準値を超えた食品が確認された市町村では，他の同一品目の食品が出荷・流通・消費されないようにしている。」(526 点)，「1 地球外からの宇宙線や大気中のラドンに加え，食品中の天然由来のカリウム 40 などから，私たちは自然放射線を受けている。」(525 点)「8 検査は，厚生労働省の指針に従い，地方公共団体が作成した検査計画に基づいて行われている。」(423 点)の順で認知度が高い。

また，不安の程度は認知度と同様に「不安」を 2 点，「やや不安」を 1 点として加重平均をとり傾向をみたところ，「3 放射性セシウムが体内に入った場合に残存する量は約 3 ヶ月で半減し（50 歳の場合），特定の臓器に蓄積する性質はない。」(156 点)，「10 厚生労働省などが行った調査の結果，食べものから体に入る原発事故由来の放射性セシウムは，年間で最大でも 0.02 ミリシーベルトとなっている。」(148 点)のように，セシウムに関連する項目で不安の度合いが高い傾向にある。

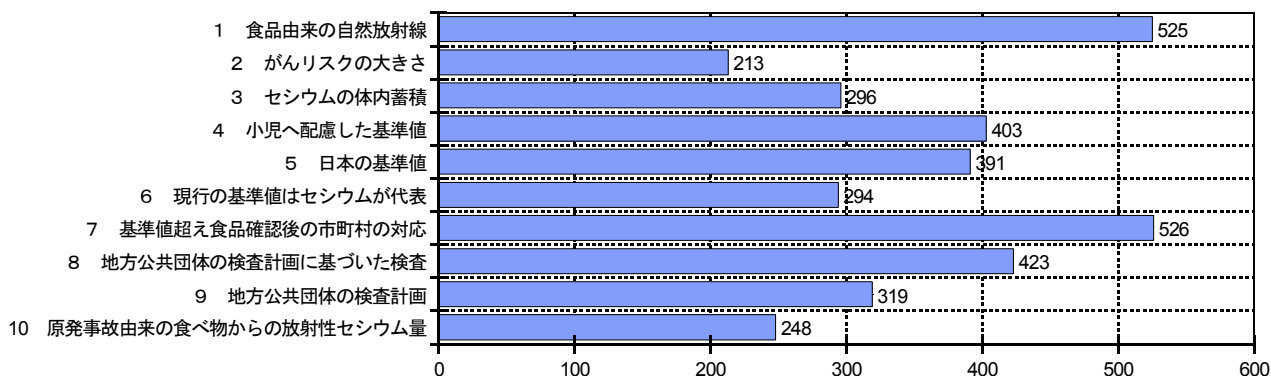


図 1 3 認知度

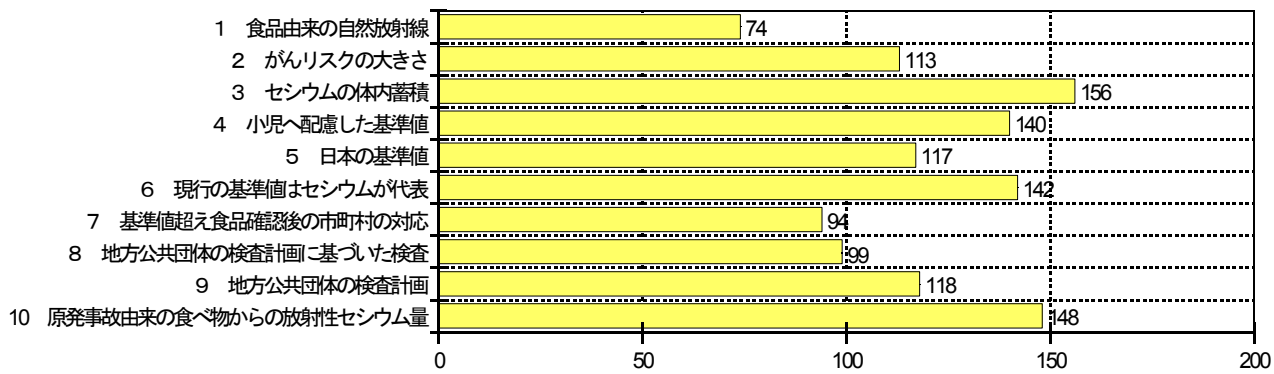


図13 不安を感じる程度

問14 食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けて、行政の取り組みとして必要と思うものは何ですか。（複数回答）

- 1 放射性物質に関する基礎的な知識を習得する機会の提供
- 2 安全基準の決定過程や諸外国の基準値との比較についての解説
- 3 検査状況や結果のわかりやすい公表
- 4 県産農産物の安全性のPR
- 5 土壌の除染など、放射性物質の軽減対策の取り組み状況のPR
- 6 特に必要なものはない
- 7 その他

食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けた行政の取組としては、「検査状況や結果のわかりやすい公表」(26.0%)、「放射性物質に関する基礎的な知識を習得する機会の提供」(20.0%)、「県産農産物の安全性のPR」(18.3%)、「土壌の除染など、放射性物質の軽減対策の取り組み状況のPR」(17.6%)、「安全基準の決定過程や諸外国の基準値との比較についての解説」(15.3%)の順で要望が高い。

男女別では有意差は見られない。

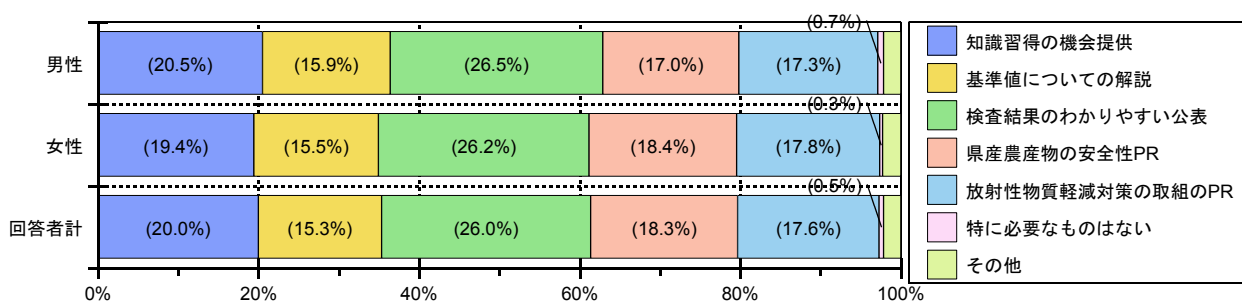


図14-1 不安や風評被害の解消に向けて行政が取り組む必要のあるもの（男女別）

年代別では、「検査状況や結果のわかりやすい公表」の項目で有意差が見られ、「30代以下」および「40代」の回答割合が低く、「70代以上」の回答割合が高い傾向がみられる。

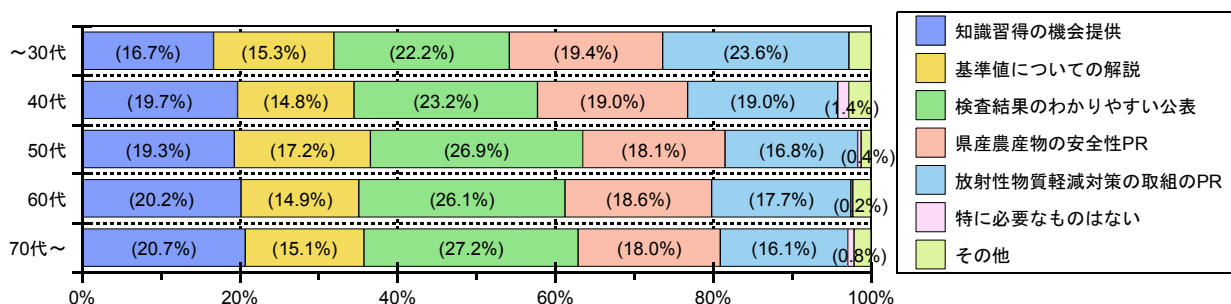


図14-2 不安や風評被害の解消に向けて行政が取り組む必要のあるもの（年代別）

未成年家族の有無別では「検査状況や結果のわかりやすい公表」の項目で有意差が見られ、「未成年の家族なし」の回答割合が高い。

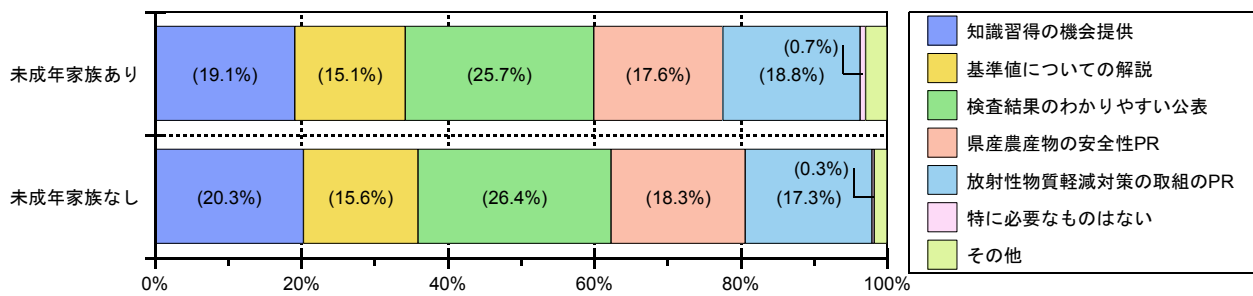


図14-3 不安や風評被害の解消に向けて行政が取り組む必要のあるもの（未成年の家族の有無別）

問15 食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けて、行政の取り組みのほかに必要と思うものはありますか。（複数回答）

- 1 消費者自らが能動的に情報収集しようとする姿勢
- 2 生産者や事業者による安全性確保への取り組みに関する情報発信
- 3 マスコミによる適正な報道
- 4 特に必要なものはない
- 5 その他

食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けた行政の取組のほかに必要と思うものは、「マスコミによる適正な報道」が39.1%と最も高く、次いで「生産者や事業者による安全性確保への取り組みに関する情報発信」が36.4%、「消費者自らが能動的に情報収集しようとする姿勢」が21.9%の順であった。

男女別、年代別では有意差は見られない。

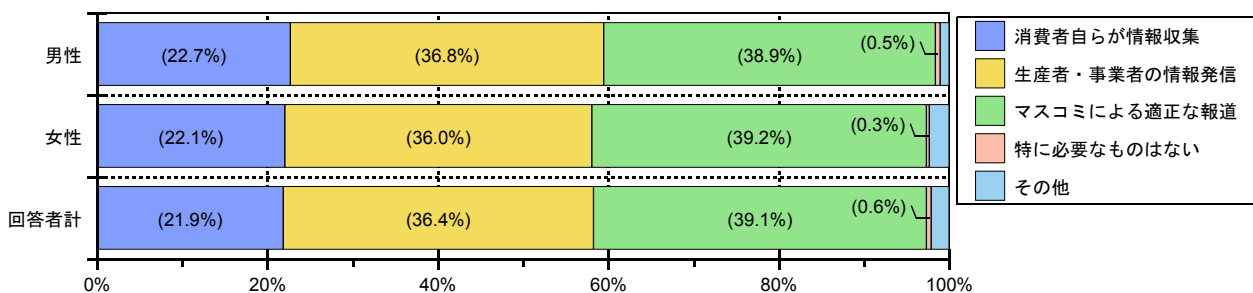


図15-1 不安や風評被害の解消に向けて行政の取組のほかに必要なもの（男女別）

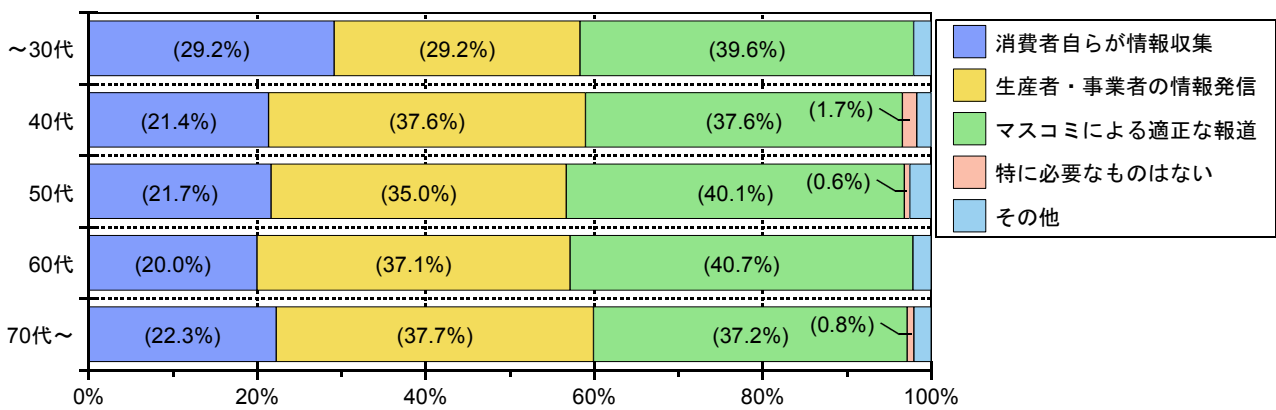


図15-2 不安や風評被害の解消に向けて行政の取組のほかに必要と思うもの（年代別）

未成年家族の有無別では、「特に必要なものはない」の項目で「未成年の家族あり」の回答割合が高い。

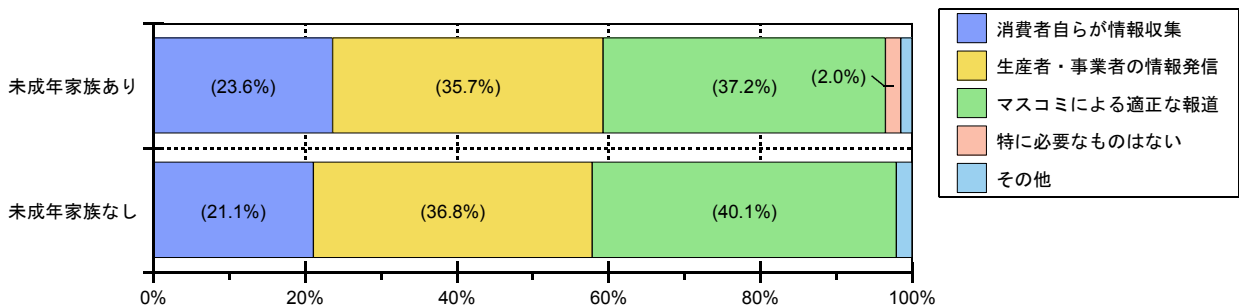


図15-3 不安や風評被害の解消に向けて行政の取組のほかに必要と思うもの（未成年の家族の有無別）

Ⅱ 食の安全安心について

問 16 食の安全安心全般について、不安を感じていますか。(単一回答)

1 不安を感じる	2 やや不安を感じる	3 どちらともいえない
4 あまり不安を感じない	5 全く不安を感じない	6 その他

食の安全安心全般について、「不安を感じる」(18.8%)、「やや不安を感じる」(48.6%)を合わせて67.4%と、7割近い回答者が不安を感じている。昨年度の結果では、「不安を感じる」(21.2%)、「やや不安を感じる」(47.1%)が合わせて68.3%で、今年度は0.9ポイント減少している。

男女別、年代別、未成年家族の有無別のそれぞれにおいて有意差は見られない。

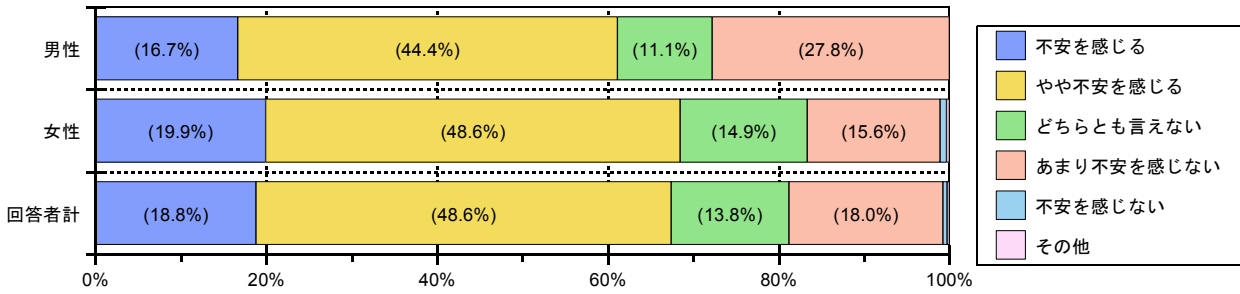
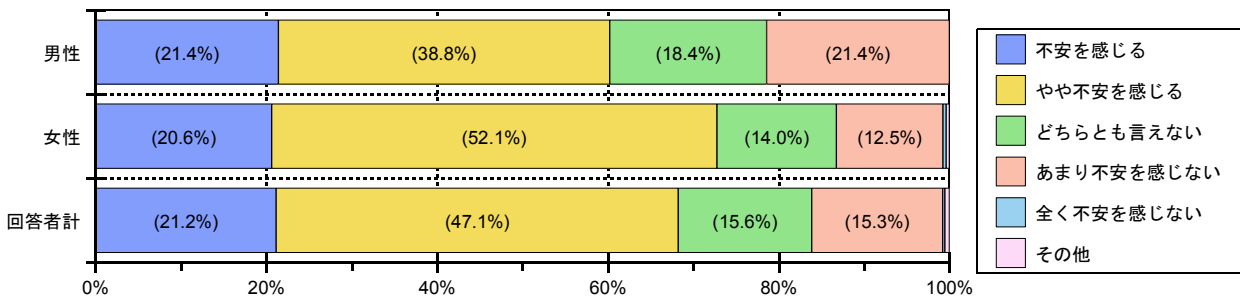


図16-1 食の安全安心全般についての不安 (男女別)



参考 (H25) 食の安全安心全般についての不安 (男女別)

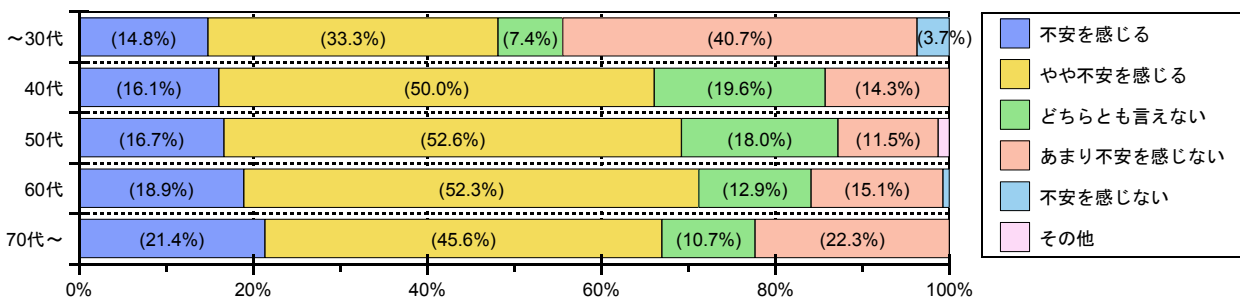


図16-2 食の安全安心全般についての不安 (年代別)

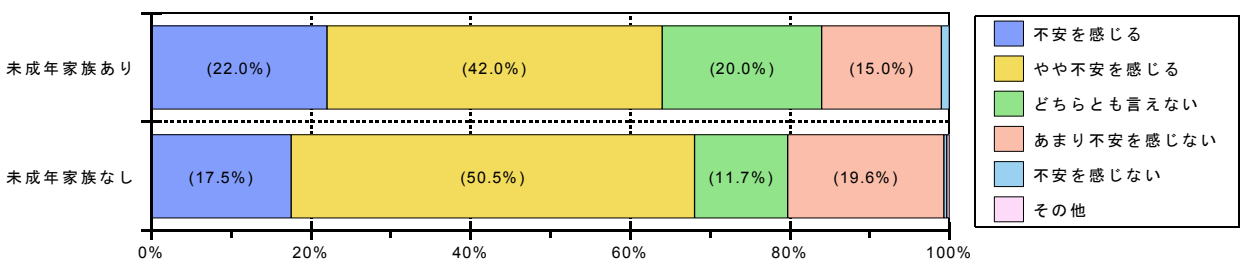


図16-3 食の安全安心全般についての不安 (未成年の家族の有無別)

問17 食の安全性について、下記の項目各々に、どのくらい不安を感じていますか。
(5段階評価)

1 食品添加物について	2 残留抗生物質について	3 環境汚染物質について
4 残留農薬について	5 異物混入について	6 アレルギー物質について
7 有害微生物について	8 家畜伝染病について	9 遺伝子組換え食品について
10 産地表示の信頼性	11 期限表示の信頼性	12 成分表示の信頼性
13 放射性物質の濃度が基準値以下の食品の信頼性	15 輸入食品の安全性	16 その他
14 健康食品の安全性		

評価	1 強く感じている	2 やや感じている	3 どちらともいえない
	4 あまり感じていない	5 全く感じていない	

不安を感じている項目としては、「残留農薬」(4.22点)がトップで、次いで「輸入食品の安全性」(4.17点)、「環境汚染物質」(4.13点)、「食品添加物」(4.09点)、「残留抗生物質」(4.06点)の順である。

昨年度のアンケート調査結果では、「残留農薬」、「環境汚染物質」、「輸入食品」、「家畜伝染病」の順であり、「残留農薬」や「環境汚染物質」、「輸入食品」への不安が依然として大きい。

24年度から項目に加えた「放射性物質の濃度が基準値以下の食品の信頼性」については、昨年度同様、比較的低い値(3.53点)である。

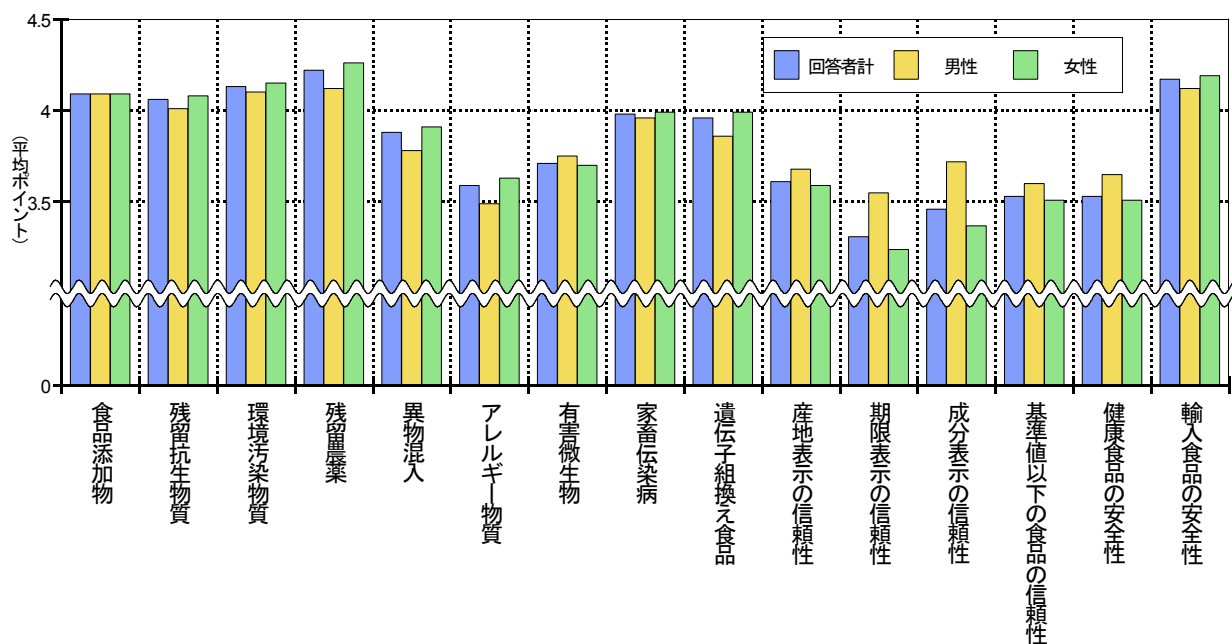
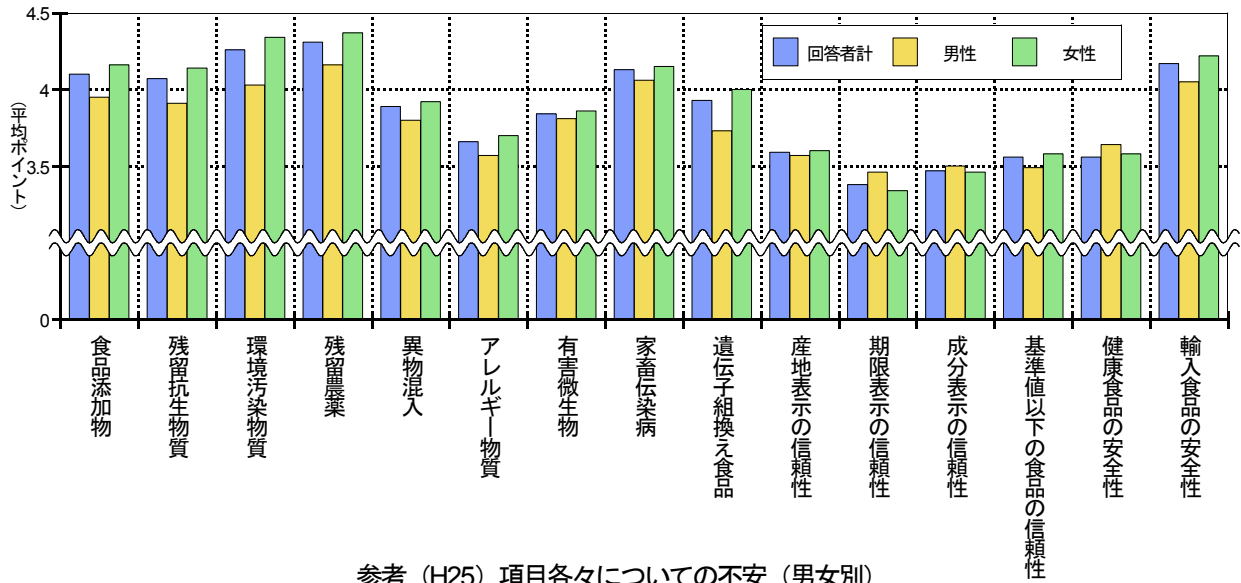


図17-1 項目各々についての不安 (男女別)

※ポイントは、「強く感じている」を5点、「やや感じている」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり感じていない」を2点、「全く感じていない」を1点とし、平均したもの。



一方、食の安全安心全般についての不安（問16）と、各項目についての不安（問17）の関連性について、満足度調査（CS分析）の手法を用いて分析すると、不安の度合いが強く、かつ、食の安全安心全般への不安に対して影響度が高い項目としては、「環境汚染物質」「食品添加物」、「残留抗生物質」、「残留農薬」である。食の安全安心全般に対する不安への影響度を考慮すると、これらの項目を優先的に軽減していく措置を講ずれば、食の安全安心全般に対する不安が軽減される効果が高いことがうかがえる。

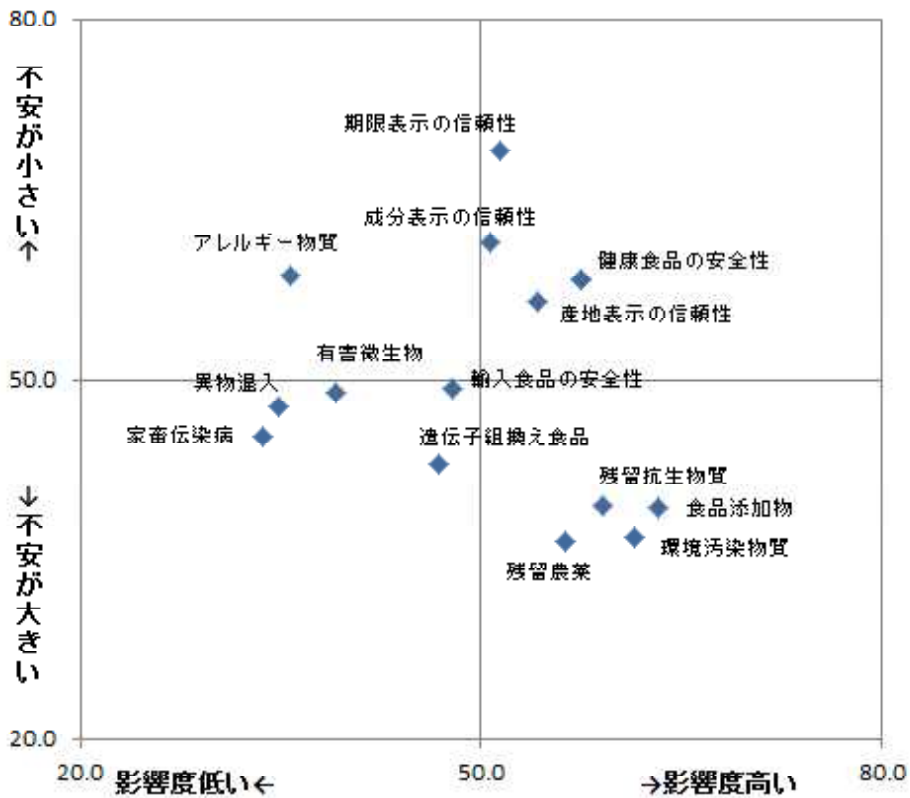


図17-2 不安項目のCS分析

問18 昨年と比較して、食の安全安心について意識の変化はありましたか。
(単一回答)

- | | | |
|----------------|------------------|-------|
| 1 不安を感じるようになった | 2 やや不安を感じるようになった | |
| 3 変わらない | 4 やや不安を感じなくなった | |
| 5 不安を感じなくなった | 6 以前から不安に思っていない | 7 その他 |

昨年度は、「不安を感じるようになった」が13.3%、「やや不安を感じるようになった」が19.4%で、合わせて32.7%が何らかの不安を感じていたが、今年度は「不安を感じるようになった」が7.7%、「やや不安を感じるようになった」が15.1%で、合わせて22.8%と9.9ポイント低下した。また、「やや不安を感じなくなった」とする回答者は昨年度に比べ1.7ポイント増えて17.3%、「不安を感じなくなった」は2ポイント増えて4.0%で、少しずつであるが不安を感じる回答者が減少している。

男女別では有意差がみられ、「不安を感じなくなった」の項目で「男性」の回答割合が高い。

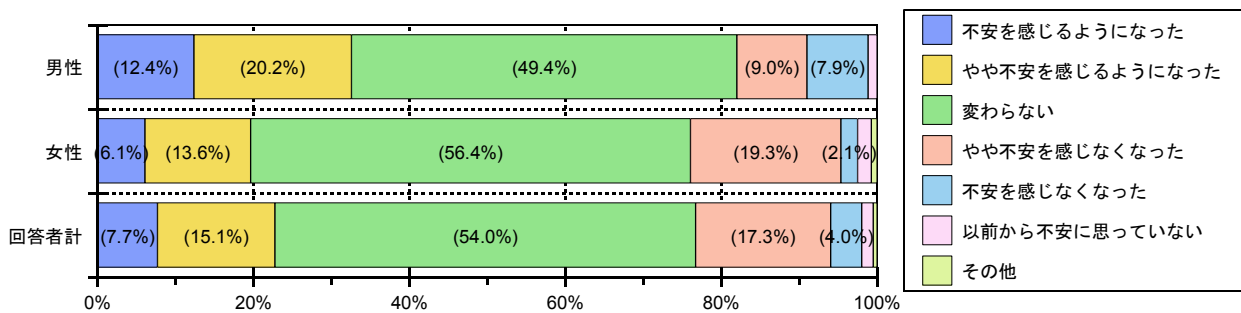
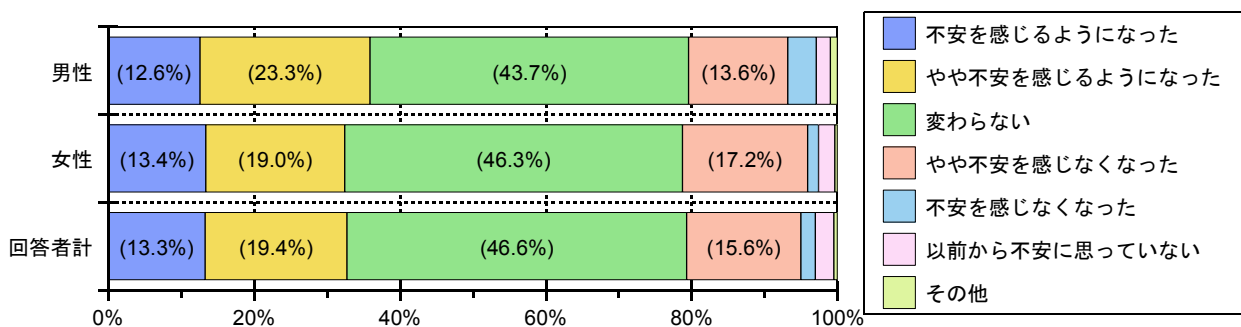


図18-1 昨年と比較した食の安全安心についての意識の変化 (男女別)



参考 (H25) 昨年と比較した食の安全安心についての意識の変化 (男女別)

年代別、未成年家族の有無別では有意差は見られない。

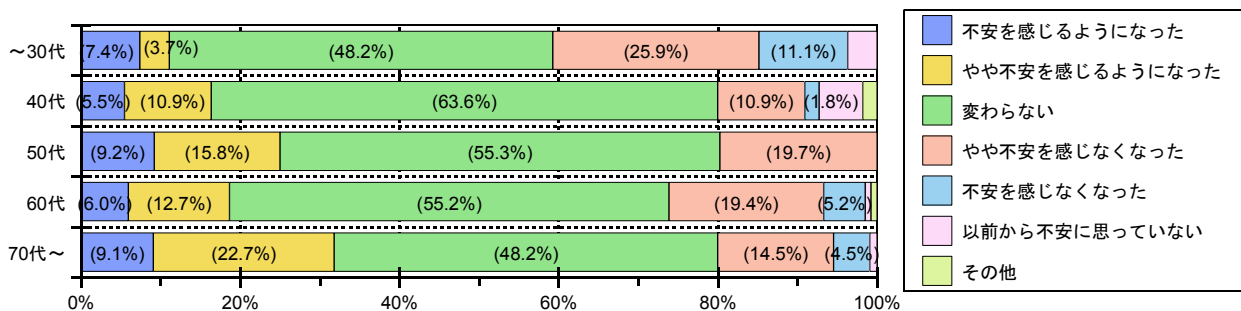


図18-2 昨年と比較した食の安全安心についての意識の変化 (年代別)

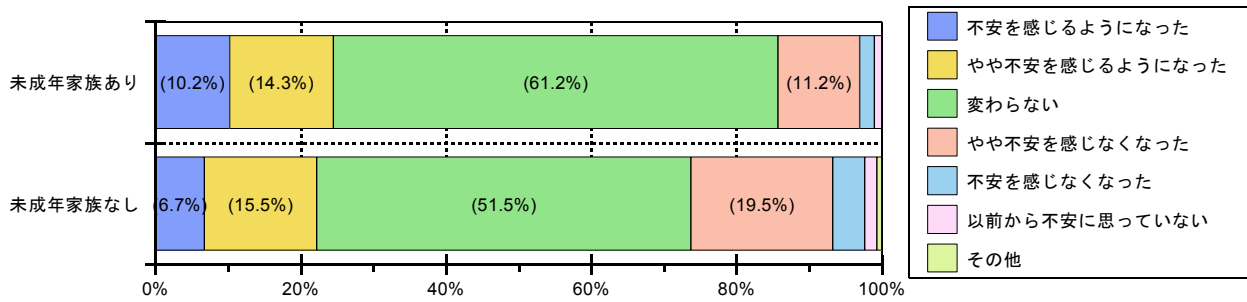


図18-3 昨年と比較した食の安全安心についての意識の変化（未成年の家族の有無別）

問19 食品の安全性を確保するための下記の取り組みについて、あなたはどのくらい重要だと思いますか。また、その取り組みに対して現在十分に行われていると思いますか。（5段階評価）

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1 食品関係法令の改正 | 2 食品の安全性を証明する第三者機関認証 |
| 3 食品製造企業の自主管理体制の強化 | 4 食品の衛生・監視指導の強化（立入検査等） |
| 5 輸入食品の検査体制の強化 | 6 県民総参加運動の推進 |
| 7 消費者への支援強化（食品を選ぶ目を養う等） | |
| 8 食に関する正しい情報の提供 | 9 食品表示の指導・監視体制の強化 |
| 10 違反、事件、事故の速やかな情報公開 | 11 その他 |

重要度	1 大変重要だと思う	2 やや重要だと思う	3 どちらともいえない
	4 あまり重要と思わない	5 全く重要と思わない	
満足度	1 十分行われている	2 大体行われている	3 どちらともいえない
	4 あまり十分でない	5 全く不十分である	

食品の安全性を確保するための各取り組みについて、回答者が大変重要だと考える（重要度が高い）が、十分に行われていないと認識している（満足度が低い）取組みを優先的に取り組むべきと考え、**「輸入食品の検査体制の強化」**、**「違反、事件、事故の速やかな情報公開」**、**「食品の衛生・監視指導の強化（立入検査等）」**、**「食に関する正しい情報の提供」**の順である。

24年度、25年度のアンケート調査でも、これら4項目が上位を占めている。

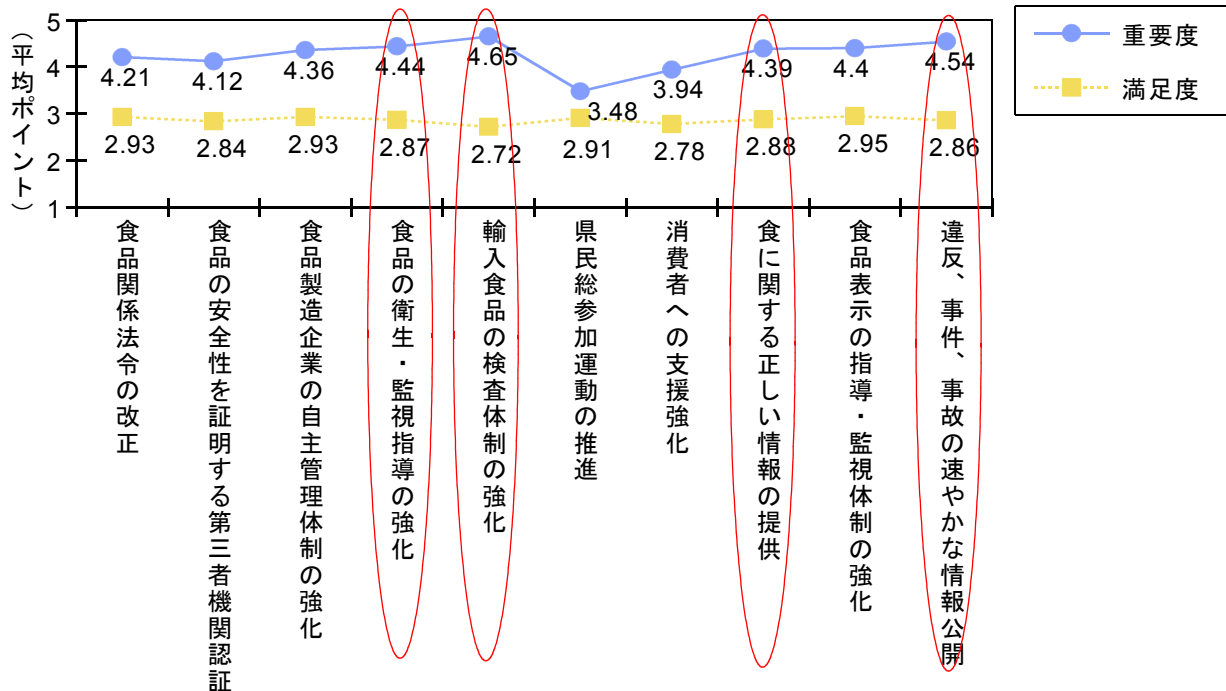


図19 食品の安全性を確保するための取り組みの重要度と満足度

※ポイントは、「大変重要だと思う」「十分行われている」を5点、「やや重要だと思う」「大体行われている」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり重要と思わない」「あまり十分でない」を2点、「全く重要と思わない」「全く不十分である」を1点として平均したもの。重要度と満足度のポイントの差から、優先的に取り組むべき項目を判断した。

問20 現在の食に対する価値観について、優先度が高いものはどれですか。
(優先度の高い順に3つまで)

- | | | |
|-----------------------|--------------|------------|
| 1 美味しいものを追求したい | 2 高価なものを摂りたい | 3 健康に配慮したい |
| 4 安全性に配慮したい | 5 食費を節約したい | |
| 6 価格にこだわらず、国産品にこだわりたい | | |
| 7 価格にこだわらず、県産品にこだわりたい | 8 その他 | |

現在の食に対する価値観について、1位～3位に挙げられた項目を単純合計すると、食に対する価値観としては、「安全性に配慮したい」(376人)、「健康に配慮したい」(350人)と回答する人が圧倒的に多く、次いで「美味しいものを追求したい」(164人)、「価格にこだわらず、国産品にこだわりたい」(149人)、「食費を節約したい」(107人)、「価格にこだわらず、県産品にこだわりたい」(67人)が続いている。

昨年度の結果と比較すると、「美味しいものを追求したい」とした回答者が増加し、「価格にこだわらず、国産品にこだわりたい」と順位が逆転した。

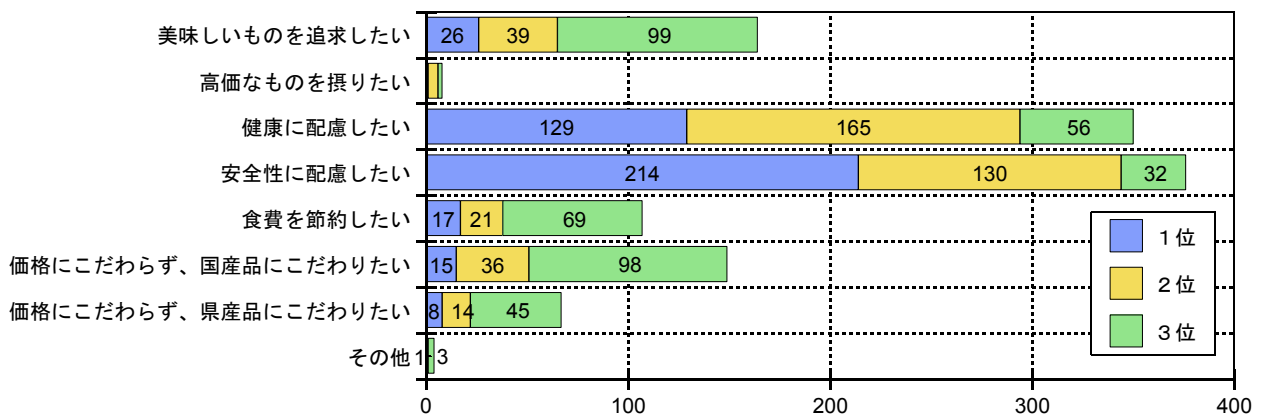
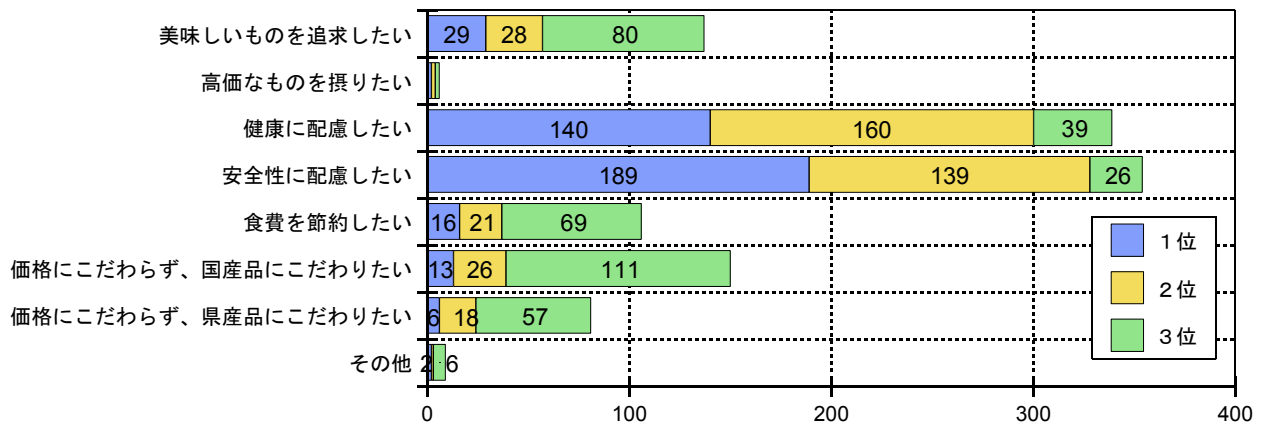


図20-1 食に対する価値観 (単純合計)



参考 (H25) 食に対する価値観 (単純合計)

男女別に有意差は見られない。

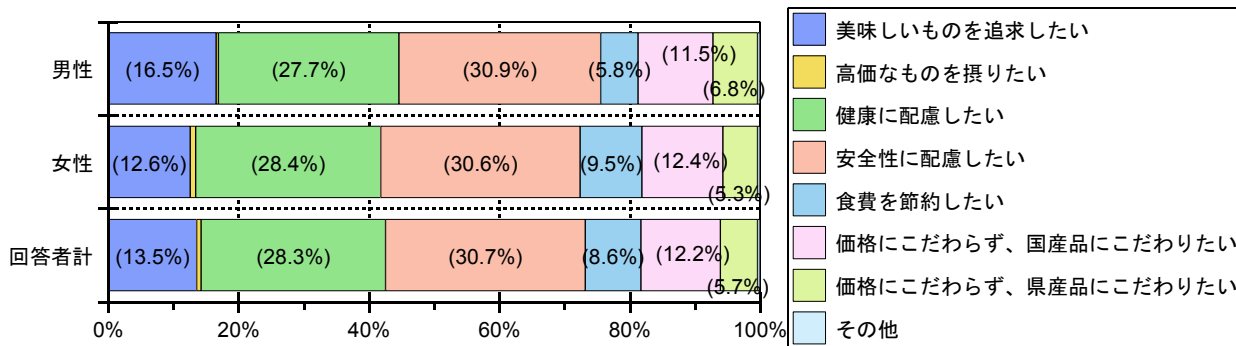


図20-2 食に対する価値観（単純合計，男女別）

年代別では有意差が見られ、「30代以下」は「美味しいものを追求したい」と「食費を節約したい」の回答割合が高い。逆に「70代以上」は「食費を節約したい」が低く、「健康に配慮したい」が高い傾向にある。家計に余裕が少ないと思われる若い世代ほど「食費の節約」を意識している。

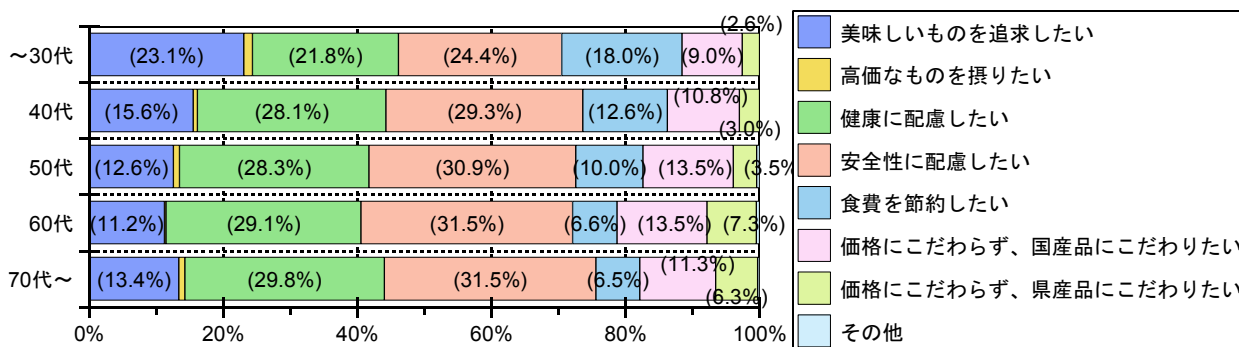


図20-3 食に対する価値観（単純合計，年代別）

未成年の家族の有無別では，有意差は見られない。

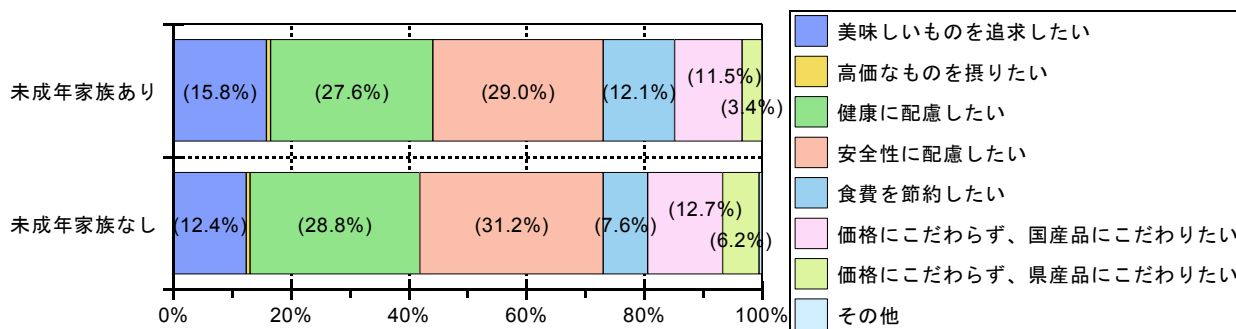


図20-4 食に対する価値観（単純合計，未成年の家族の有無別）

問 2 1 さらに食の安全安心に向けた取り組みを実践するために、県が取り組むべきこととして望むのはどれですか。(複数回答)

- 1 生産者の取り組みへの支援
- 2 安全な農水産物生産環境づくり支援
- 3 食関連事業者に対する支援
- 4 生産者に対する安全性の監視及び指導の徹底
- 5 食関連事業者に対する安全性の監視及び指導の徹底
- 6 食品表示の適正化の推進
- 7 情報の収集、分析及び公開
- 8 消費者、生産者及び食関連事業者との相互理解の促進
- 9 県民総参加運動の推進
- 10 県民意見の施策への反映
- 11 (県の)体制の整備及び関係機関等との連携強化
- 12 審議会(「みやぎ食の安全安心推進会議」)の機能強化
- 13 その他

食の安全安心に向けて、県は「生産者の取り組みへの支援」(12.3%)、「安全な農水産物生産環境づくり支援」(12.2%)、「生産者に対する安全性の監視及び指導の徹底」(12.2%)、「食関連事業者に対する安全性の監視及び指導の徹底」(12.2%)、「食品表示の適正化の推進」(11.5%)に取り組むことが求められている。

昨年度は、「生産者に対する安全性の監視及び指導の徹底」、「生産者の取り組みへの支援」、「安全な農水産物生産環境づくり支援」、「食関連事業者に対する安全性の監視及び指導の徹底」、「食品表示の適正化の推進」の順であり、生産者や食関連事業者への監視及び指導の徹底を求める意向が強い。

男女別では、「情報の収集、分析及び公開」の項目で有意差が見られ、その割合は「女性」の方が高い。

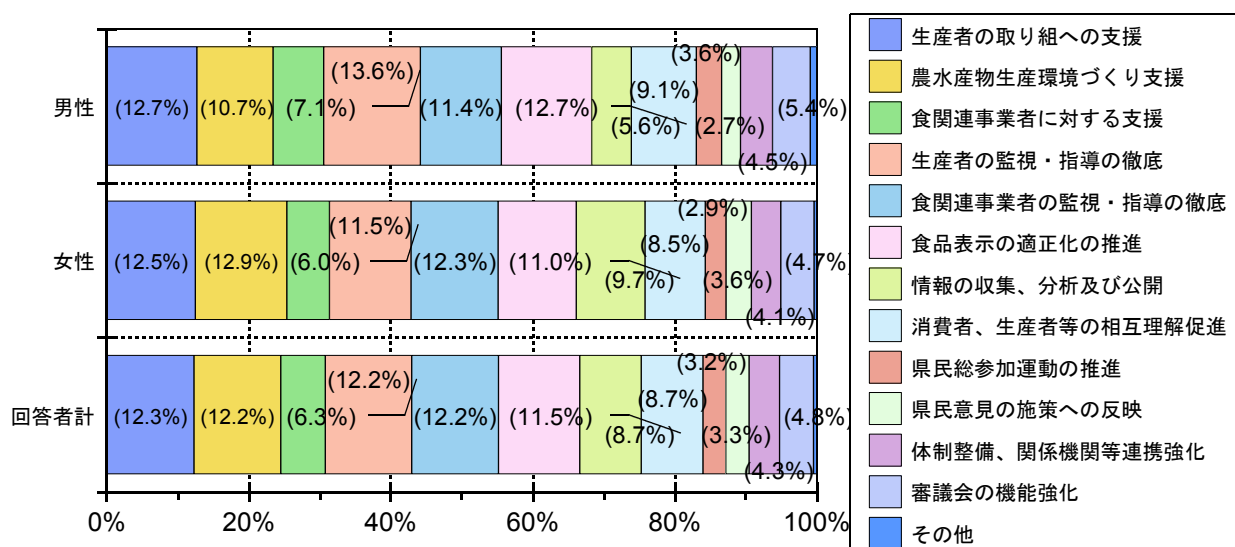
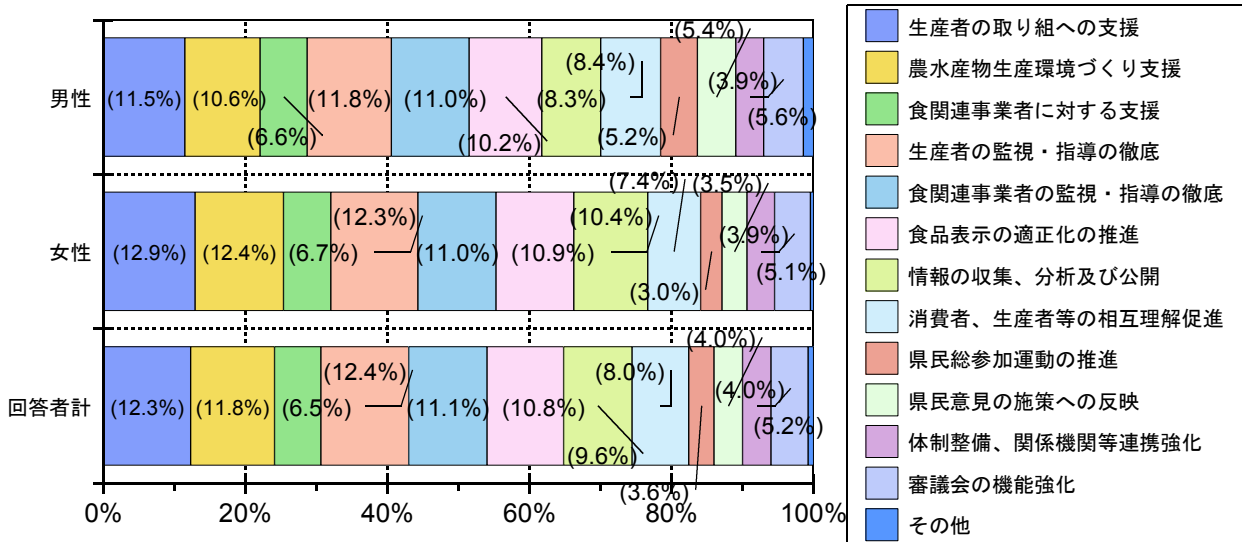


図21-1 食の安全安心に向けて取り組むべきこと(男女別)



参考 (H25) 食の安全安心に向けて取り組むべきこと (男女別)

年代別では有意差が見られ、「70代以上」で他の年代に比べ「情報の収集、分析及び公開」の割合が低く、「(県の)体制の整備及び関係機関等との連携強化」では割合が高い。
「審議会(「みやぎ食の安全安心推進会議」)の機能強化」では、「30代以下」および「40代」でその割合が低い。

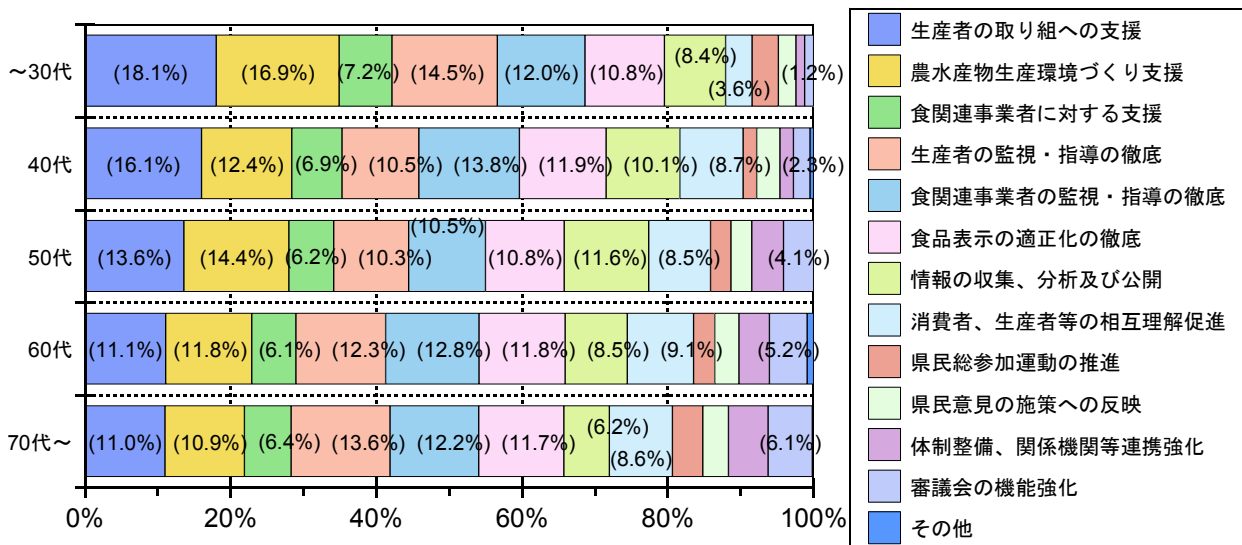


図21-2 食の安全安心に向けて取り組むべきこと (年代別)

未成年の家族の有無別では、「県民総参加運動の推進」、「(県の)体制の整備及び関係機関等との連携強化」、「審議会（「みやぎ食の安全安心推進会議」）の機能強化」の項目で有意差があり、「未成年の家族なし」の回答割合が高い。

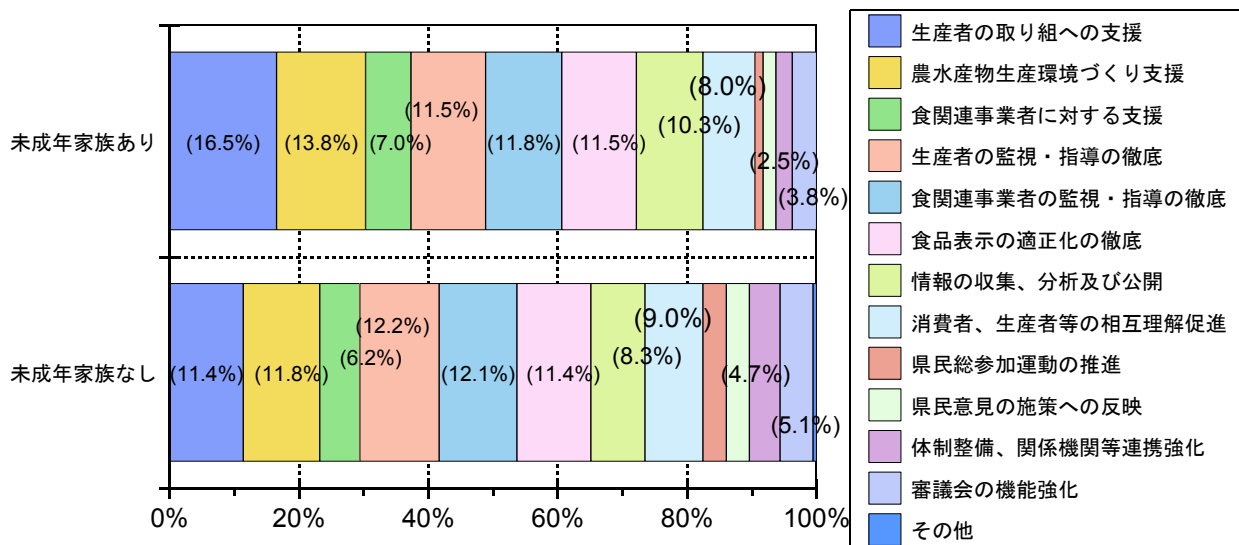


図21-3 食の安全安心に向けて取り組むべきこと（未成年の家族の有無別）

問22 あなたは、どのようにして県が出す食の安全安心に関する情報を確認していますか。(複数回答)

- | | | |
|-----------|------------|------|
| 1 県政だより | 2 県のホームページ | 3 新聞 |
| 4 テレビ・ラジオ | 5 その他 | |

県が出す食の安全安心に関する情報は、「県政だより」(32.3%)、「新聞」(31.9%)、「テレビ・ラジオ」(25.6%)、「県のホームページ」(8.7%)の順で確認するとしている。

男女別、年代別、未成年家族の有無別のそれぞれにおいて有意差は見られない。

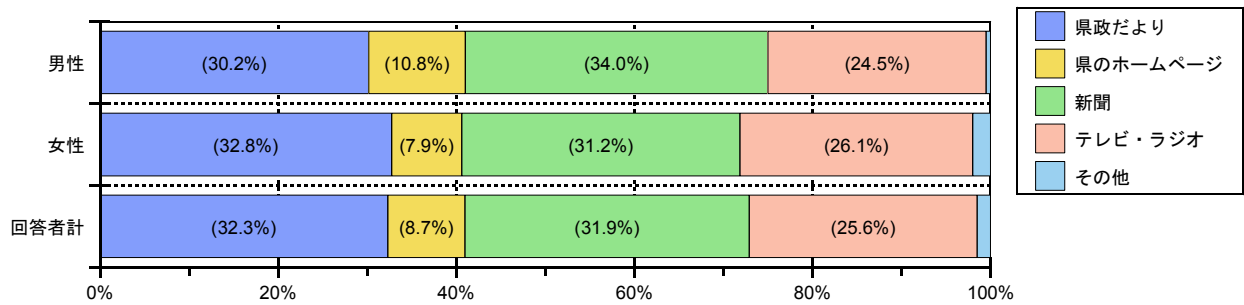


図22-1 県からの情報入手方法 (男女別)

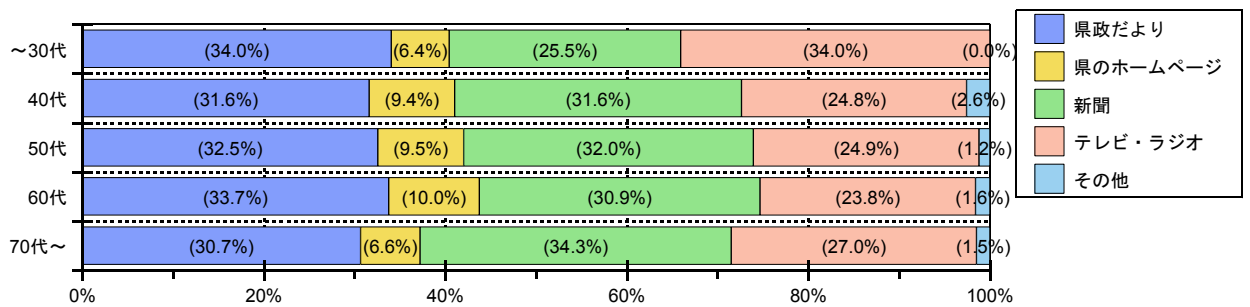


図22-2 県からの情報入手方法 (年代別)

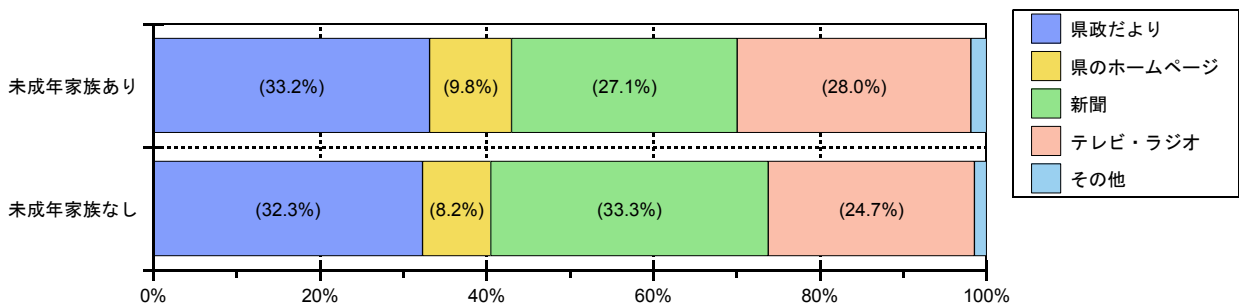


図22-3 県からの情報入手方法 (未成年の家族の有無別)

問23 県からの情報提供について、十分だと感じていますか。(単一回答)

評価	1 十分である	2 おおむね十分である	3 どちらともいえない
	4 あまり十分でない	5 十分でない	6 その他

県からの情報提供については、「十分である」(2.7%)と「概ね十分である」(34.5%)が合わせて37.2%と、昨年度に比べ0.1ポイント上昇した。

男女別、年代別、未成年家族の有無別のそれぞれにおいて有意差は見られない。

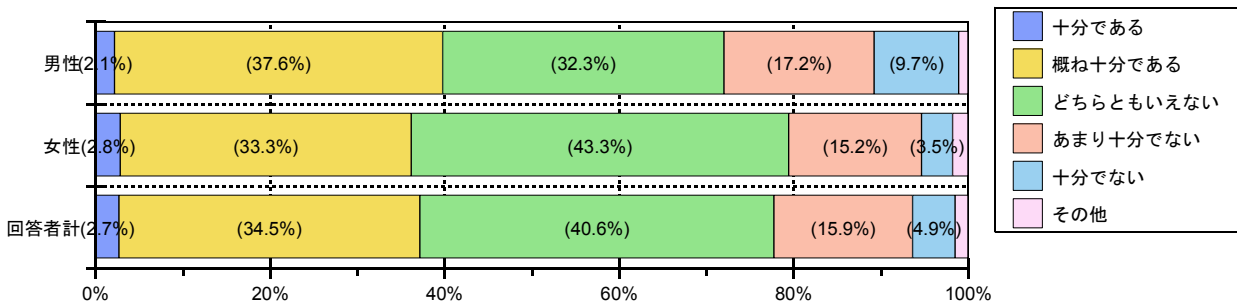
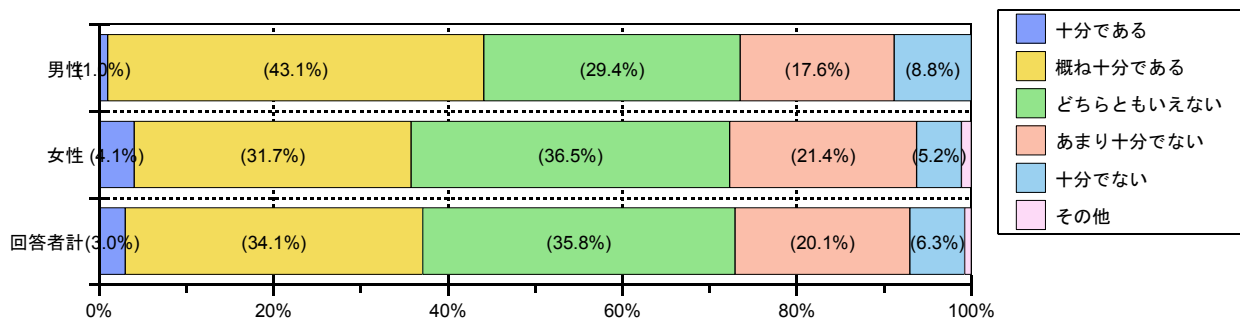


図23-1 県からの情報は十分か (男女別)



参考 (H25) 県からの情報は十分か (男女別)

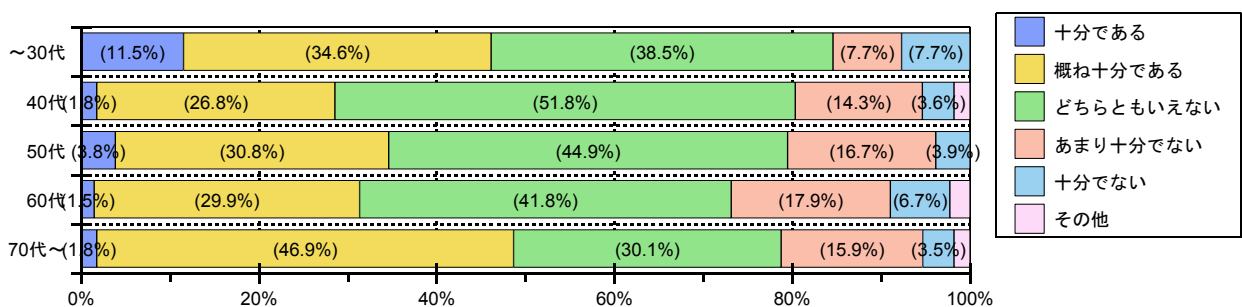


図23-2 県からの情報は十分か (年代別)

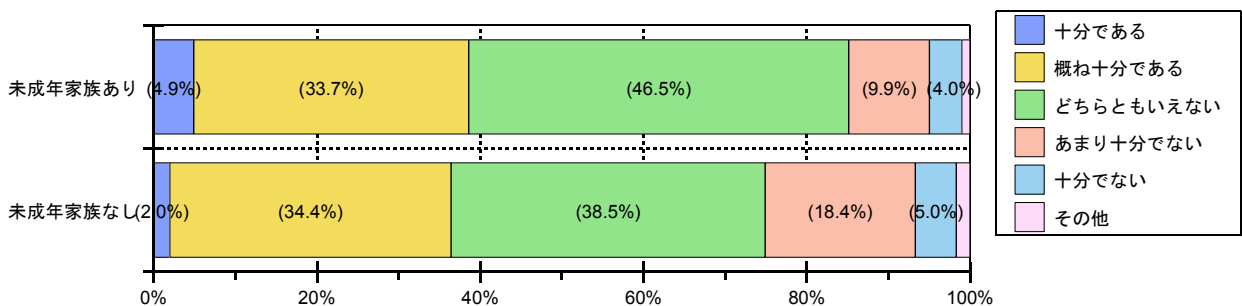


図23-3 県からの情報は十分か (未成年の家族の有無別)

問24 県からの情報提供について、どのような内容の情報を知りたいですか。
(複数回答)

- 1 法令等の改正や行政上の手続き
- 2 食中毒や自主回収等
- 3 食品表示の見方
- 4 国や県が行っている対策や事業
- 5 消費者モニターの活動（セミナーの内容等）
- 6 食の安全安心の確保に取り組んでいる生産者・事業者の紹介
- 7 その他

知りたい県からの情報は、「食の安全安心の確保に取り組んでいる生産者・事業者の紹介」（24.5%）、「国や県が行っている対策や事業」（22.0%）、「食中毒や自主回収等」（20.0%）、「食品表示の見方」（14.5%）の順で、日常生活で不可欠な食材の提供は、信頼できる生産者や事業者に委ねたいという意向がうかがえる。

男女別や年代別では、有意差が見られない。

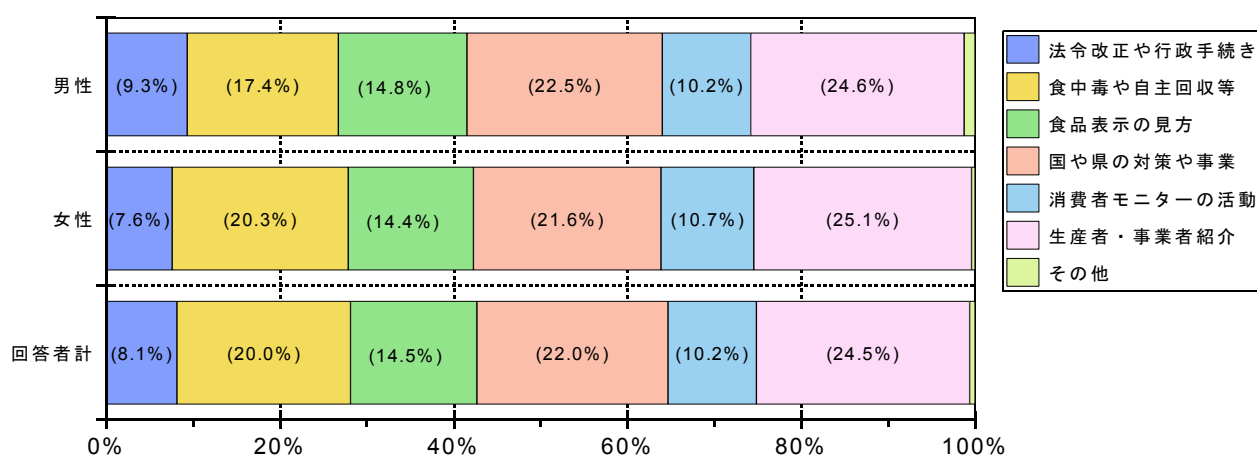


図24-1 県からの情報で知りたい内容（男女別）

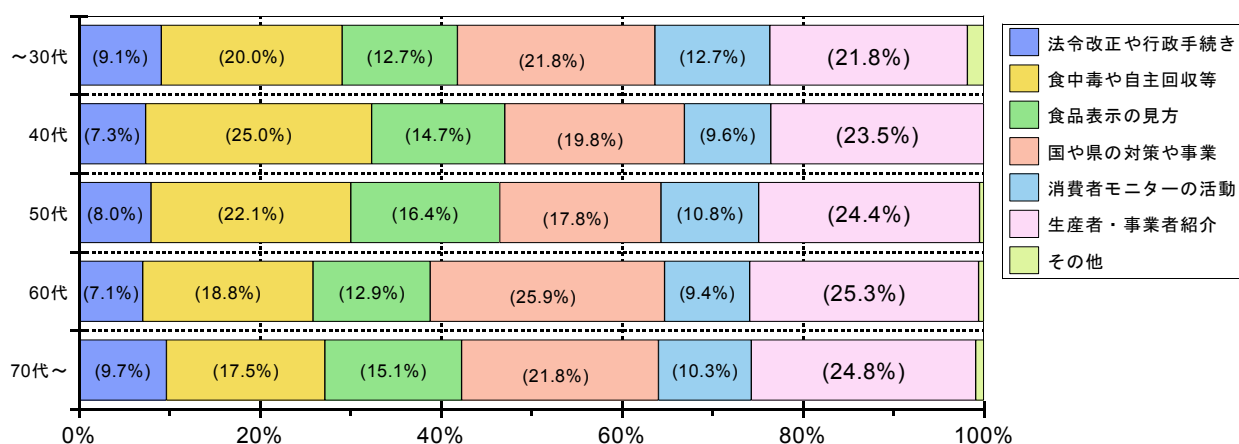


図24-2 県からの情報で知りたい内容（年代別）

未成年家族の有無別では、「食の安全安心の確保に取り組んでいる生産者・事業者の紹介」の項目で有意差が見られ、「未成年の家族なし」の回答割合が高い。

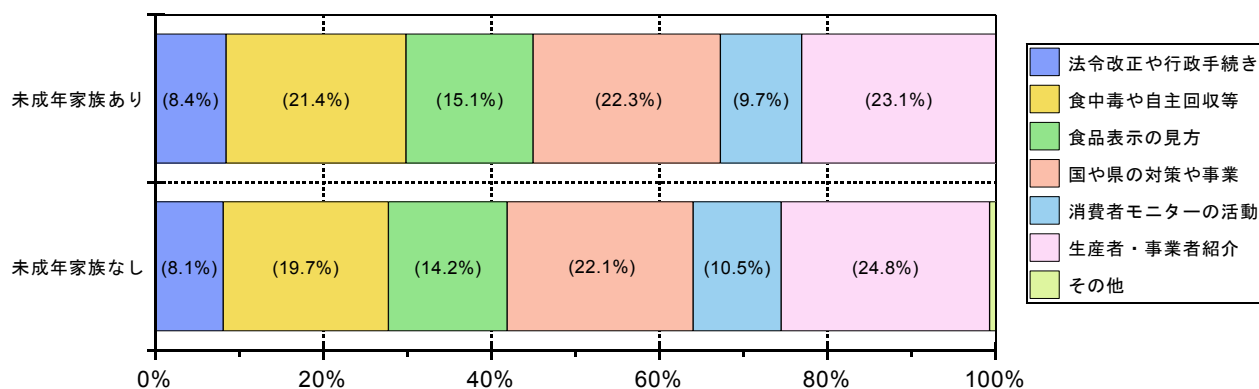


図24-3 県からの情報で知りたい内容（未成年の家族の有無別）

問25 食の安全安心全般, 国や県の施策についての意見, 提言

計191件の記述回答があり, その内容としては, 放射性物質や食品表示に関する意見が多く, 「信頼性が高く」「身近な情報ツール(新聞やテレビ, ラジオ)による」「より速やかな」情報提供を求めるといったものが多かった。(個別の内容は省略)